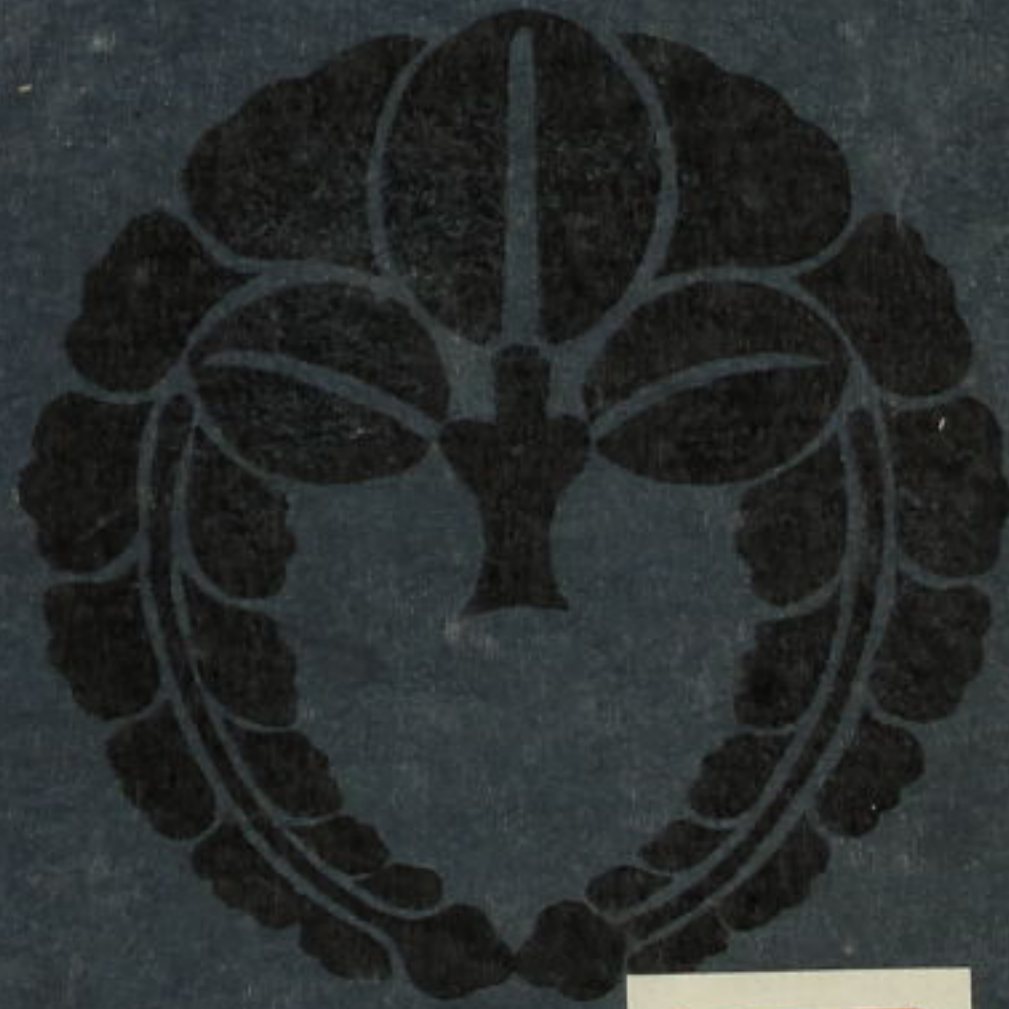




妙見
感左

清正真傳記

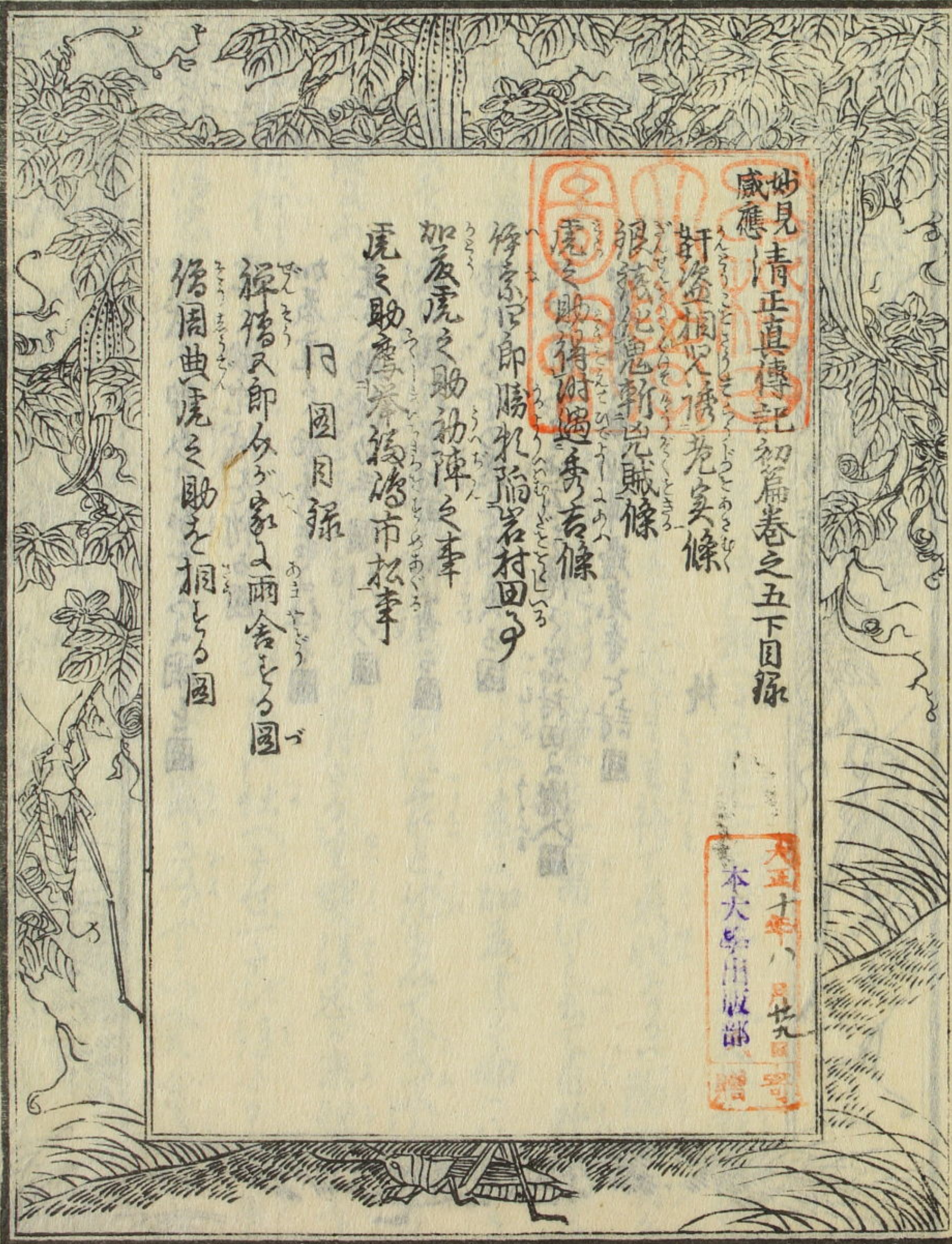
初篇
五下



~ 13
3333
6



門
へり
3333
巻
6



妙見 清正傳記 初篇卷之五下目錄

威應 軒盜相火條 虎之助條

眼 虎之助條

修 虎之助條

加 虎之助條

虎之助條

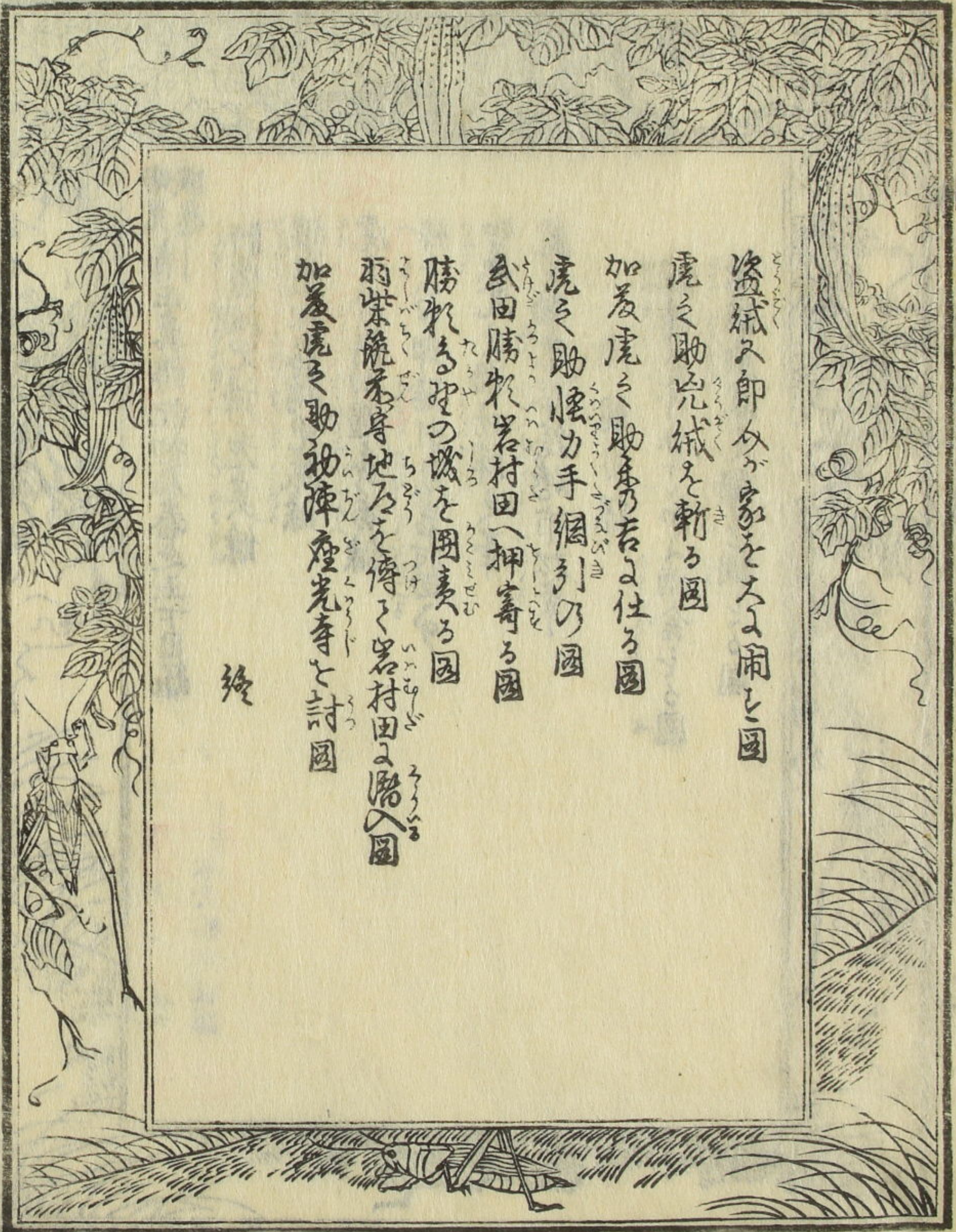
日 國目錄

禪 虎之助條

偽 虎之助條

大正十年八月廿九日
本大學用印部

清正傳記 卷之五下



盜賊又即女が家をとらふ雨と國
 虎之助兇賊を斬る國
 加差虎之助勇若くは仕る國
 虎之助怪力手綱引の國
 武田勝頼岩村田一押寄る國
 勝頼多野の城を圍まる國
 雨柴籠身地を傳へ岩村田一入國
 加差虎之助初陣座光寺と討國

終

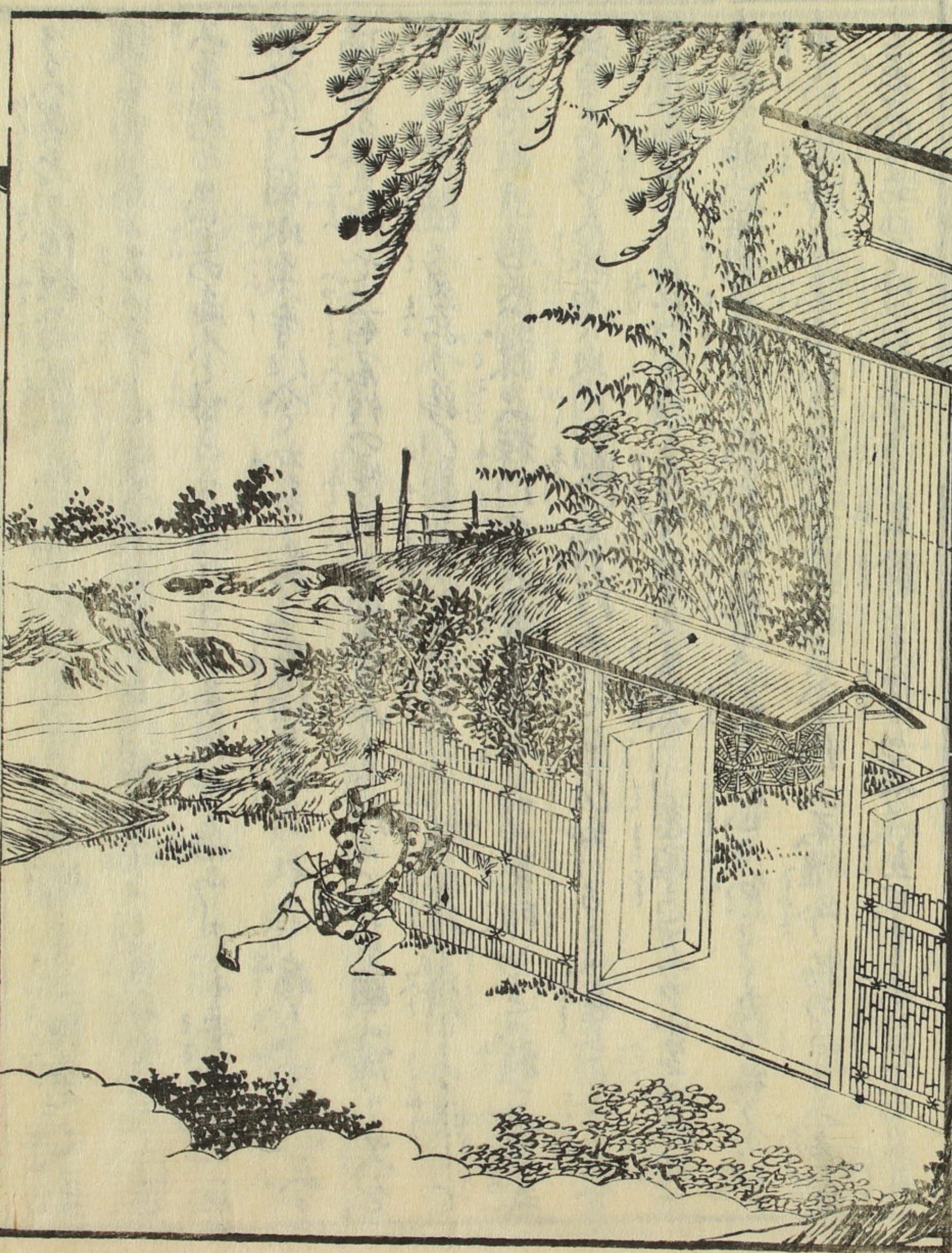
威應 清正真傳記初篇卷之五下
 奸盜相見 添老笑條

柳田一田が初學の父又母の其子成教とて思とせざる之父母教は先
 其子成教の其子成教を世せざるなりと此れも生後て思惟なる陶淵明が
 又男児のてく通る九齡まむ天和を業とを需むとて自款せり
 天性の才機は豈よく人倫の及ぶ不方らんや爰に加差虎之助八歳に
 ちて父をくま月國は初學又即女が如に長き地を以て成子とて母を
 諸君は地とあり又即女は心とて真の背する生後清忠が末期に
 心腹は鶴行にして虎之助を諸侯の如に仕へせしむ終るを真
 としんば清忠とて東下りて対面ありと十一歳に及ぶと九余の心を
 をたしめ其をりる日蓮を此寺に遷すは法讀書ありとて小同
 福と耳にすくると二つは心とてのりては法讀書と師南とる若

あり。是が方へ入る。せ。剣術を習ひ。二三歳ありて。曾て幼少法。漢書
日。精心を勵ま。凡。何ともく。あるがごとく。に。以て。う。び。即。以。是。を。表。す。小。虎
之。筋。改。を。上。げ。て。中。多。く。先。日。師。の。術。方。人。と。物。語。り。し。時。を。隣。子。賊。又。は
也。若。楚。の。頂。相。と。ふ。人。あり。幼。稚。の。時。を。く。と。叙。す。頂。相。と。い。ふ。人。は。昔
は。十二。三。歳。の。時。書。と。受。む。と。い。は。れ。た。乃。に。劍。術。を。教。え。た。る。と。一。日。頂。相。頂
羽。を。妻。と。し。女。彼。を。愛。む。が。以。て。是。も。習。ひ。凡。何。も。な。ん。と。と。る。と。と。云。頂。羽
善。て。書。い。人。の。姓。名。を。記。す。劍。人。は。款。と。る。の。も。我。の。方。人。は。苗。名。を。受。む
ん。と。う。く。と。う。也。我。を。受。て。何。と。申。す。理。の。中。に。是。は。今。の。世。劍。術
と。指。南。と。る。と。い。ふ。本。刀。竹。刀。を。受。て。其。形。を。教。へ。服。力。れ。今。を。脱。る。と
つ。の。も。真。の。豪。傑。に。出。合。一。丈。の。大。力。と。氣。を。振。て。く。は。後。の。時。を。劍
術。者。何。の。益。も。な。ん。と。習。ひ。學。問。も。天下。流。り。て。後。い。と。云。は。今。の。世
と。ま。て。入。用。の。り。ま。あ。い。は。大。名。を。ぬ。く。後。に。儒。者。右。等。教。を。石。抱。て。劍

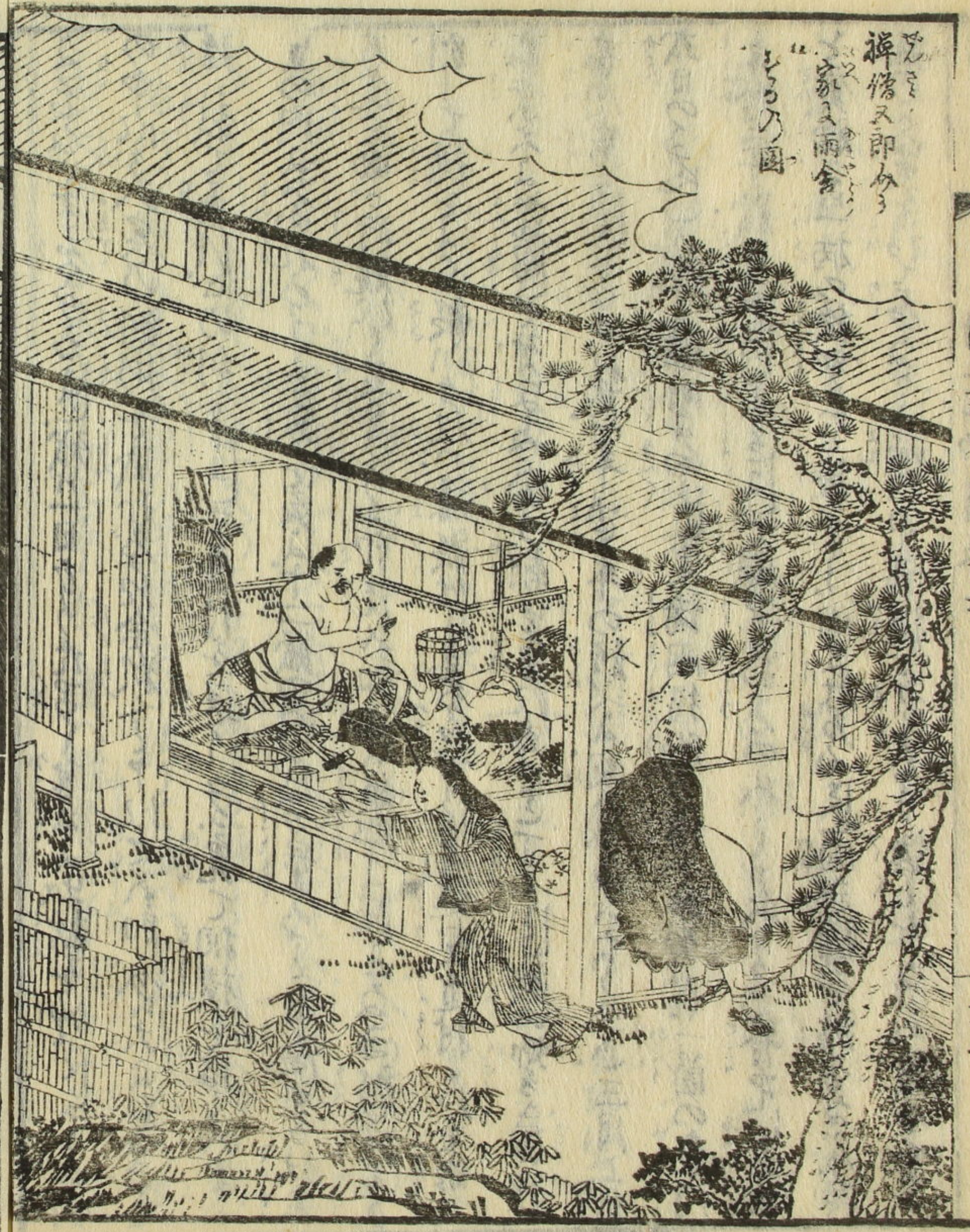
は。名。を。い。事。々。の。る。は。は。我。が。一。日。方。り。た。子。を。甘。ん。ぶ。出。款。を。仰。じ。て。志。劍
の。中。に。か。入。突。乃。劍。術。を。法。む。を。た。念。執。へ。と。中。に。そ。又。即。以。大。に。習。む。と。云
後。に。教。て。妻。以。心。の。終。も。は。て。年。月。を。送。り。多。く。免。て。相。撲。を。好。む。又。里。十
里。の内。に。系。礼。み。く。南。方。を。表。す。十二。歳。の。時。は。力。量。あ。と。自。強。と。る。壯。年
九。虎。之。助。が。行。腕。に。是。等。り。多。く。却。況。又。即。以。道。郷。に。強。ま。る。と。云。彼。一。行。と。云
別。て。謙。と。う。く。報。は。た。し。謙。報。活。と。名。を。せ。し。と。遠。く。里。近。村。と。い。と。求。む
家。業。大。に。繁。昌。と。て。牙。又。女。人。あり。朝。夕。善。い。む。と。と。丁。こ。と。に。報。の。郷。考。さ。と。云
家。内。富。る。と。い。は。れ。た。一。年。中。年。の。時。は。関。する。の。り。と。云。三月。二。日
本。日。の。つ。じ。が。既。に。晴。時。の。向。じ。く。諸。國。の。脚。の。傍。と。抄。り。く。一。箇。の。素。門
年。齡。三。十。歳。斗。肥。肉。更。を。は。て。眼。中。易。老。の。人。と。い。ふ。力。久。き。が。脊。中。に。色。液
と。負。腰。は。一。柄。の。後。如。意。と。排。な。り。く。圖。を。た。る。か。に。圖。き。謙。を。報。を。る。が。其
後。内。に。入。素。と。は。て。春。な。り。く。尚。又。即。以。進。と。お。も。う。熟。と。お。な。り。く。稍。あ。て。中

青丘巴力高家五



三十四

禪僧又即み
家又雨舎
もの入園



禪僧又即み
家又雨舎
もの入園

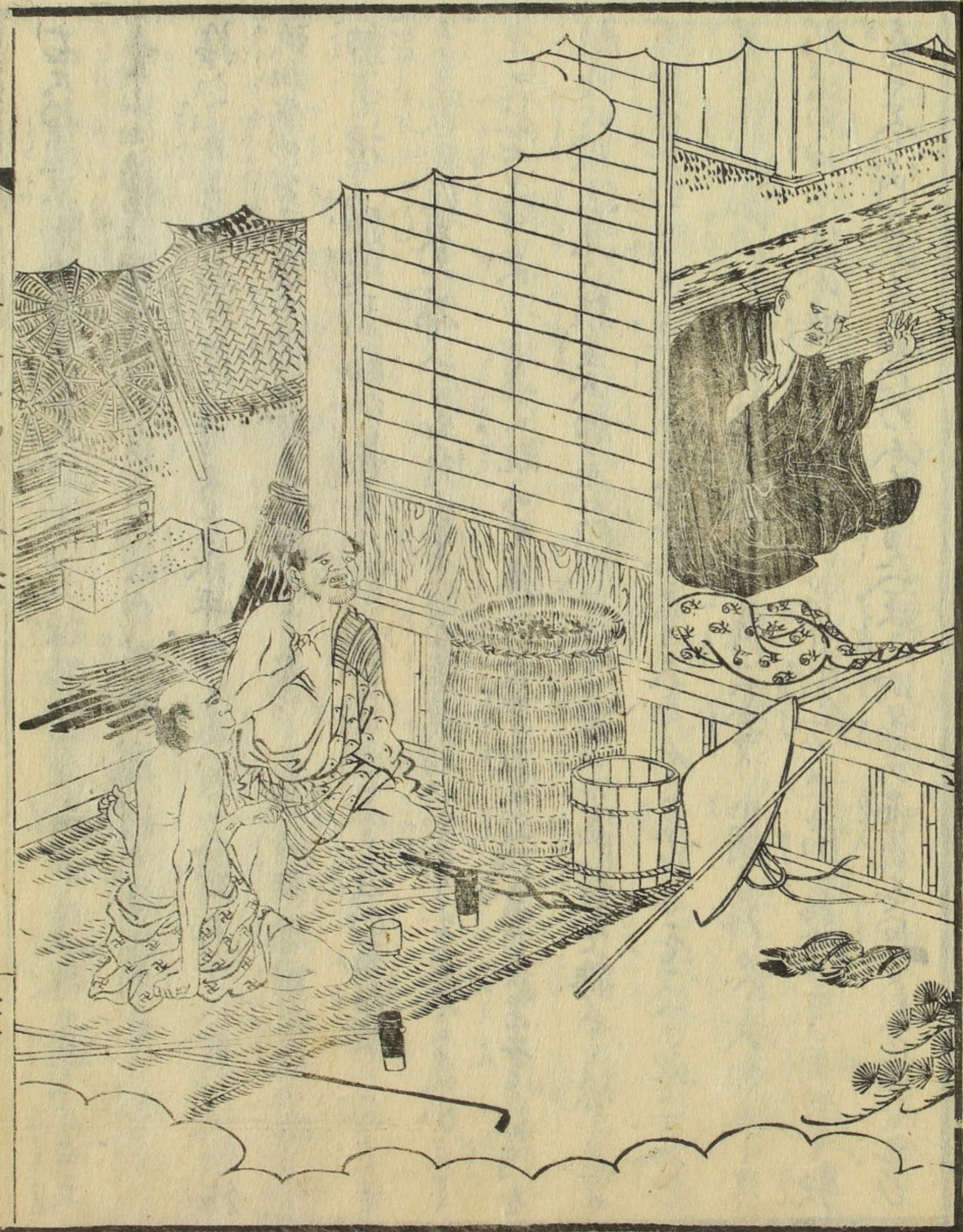
三十四

たるは若くは信州の四城一系が名の産我の兼則と云ふ刀振迄之元未
 誠著は若くは名工まゝ小國未宗先或いは代鶴國書と諸名卷の人は
 又兼則も出世の名人と云ふ人なり。三思僧多痛少く。其業を修む
 然るに月國承平寺に今出家せり。宿願多事の成るや痛も全快。ま
 諸國を雲あて。一石燈の境界もあまら。今年たましく本國に帰るを
 訪ひ。又賤は身あり。若し盜若必養のち天龍鬼神と降し。其情にて
 生滅を脱するは。殊文釋門の必棄恩入。其の契印は。敢て悔と表
 せ。其のの丸後石は。血肉の親。もねにふれて。そのい出る。そよ意。どし。丁たる
 振職の御書き。と。何し。と。又。を。高念。忽。圖。き。刀。の。小。足。下。此。鑑。と
 又。て。お。後。入。客。の。風。よく。あ。る。状。は。何。なり。余。は。心。の。ど。く。り。物。う。な。り。
 書。い。る。あ。ま。ん。を。お。愛。ひ。の。業。成。法。い。内。よ。入。て。何。も。不。准。今。物。の。こ。ま。る。書。修
 と。思。又。ご。り。の。心。結。ふ。と。う。年。齡。を。遙。く。若。く。立。世。を。余。は。刀。を。ま。が。り。斗

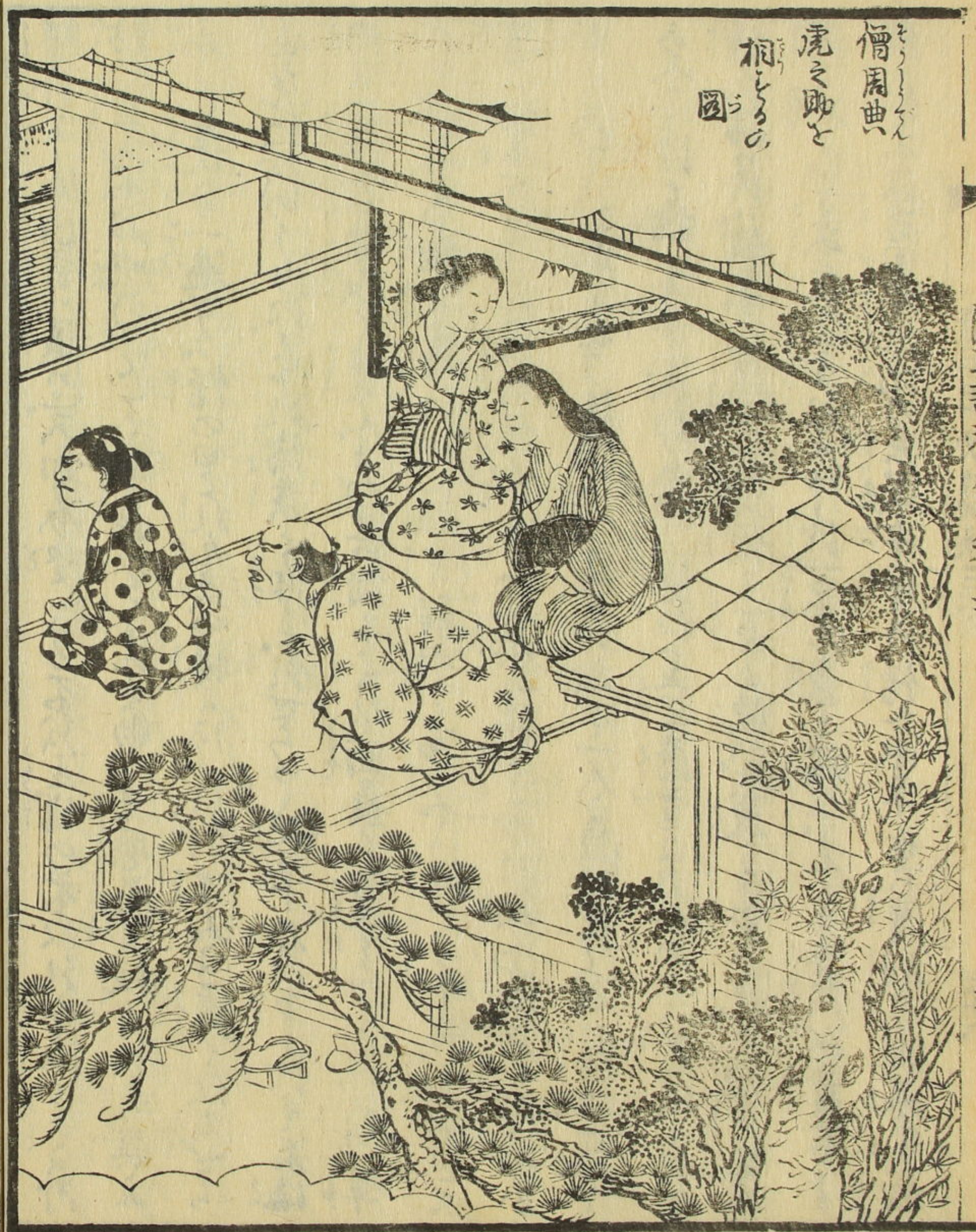
ち。ふ。就。坐。よ。と。又。か。世。の。り。丸。思。い。出。る。と。思。麻。を。り。や。り。あ。ま。る。落。後
 せ。り。と。殊。教。を。解。する。斗。の。洞。三。教。糾。は。鼻。の。よ。に。流。ま。る。を。毛。を。ま。ま。家
 出。る。も。親。子。は。恩。を。い。か。り。と。う。と。又。即。女。ま。婦。も。法。を。を。修。む。う。り。は
 急。雨。降。り。下。の。雨。あ。籠。を。な。せ。様。傳。い。た。に。此。門。よ。出。て。は。方。と。ま。が。り。付
 倉。そ。も。昨。と。い。今。と。い。い。け。急。雨。は。行。り。ぞ。と。喃。く。ま。る。包。袂。と。解。て。つ。る。三
 南。安。阿。弥。陀。佛。昨。曉。の。名。は。雨。夜。を。乾。く。盡。き。裁。と。云。ふ。又。即。女。ま。婦。も
 ま。の。難。儀。は。終。る。に。今。少。憩。ひ。給。り。後。り。雨。も。止。止。若。露。は。雨。夜。を
 系。う。以。て。し。と。い。不。虎。之。脚。暴。雨。を。降。り。立。降。る。を。ぬ。り。内。か。ま。り。出。今。將
 く。給。り。は。雨。中。也。と。濡。な。る。降。り。行。り。そ。と。云。と。又。即。女。ま。婦。と。制。して
 人。も。立。以。て。吃。給。ふ。と。自。ら。衣。袂。を。衣。く。虎。之。脚。も。多。段。を。ぬ。ぐ。い。ひ。か。の。僧
 虎。之。脚。が。教。を。う。く。く。と。大。き。き。小。思。只。下。の。る。は。自。息。や。又。即。女
 が。云。給。り。僧。又。回。矣。我。り。や。又。即。女。ま。婦。も。り。け。時。禅。僧。再。び。虎。之。脚。を

右の肩と祖せし両股を塞げさせ、然く見て中々の多僧施系國に遊學の
 のあり博多の正福寺に留り居り三年之永正年中又大明國の朱良範
 と云人け寺又来り。朱朝麻衣道人の相法を傳くお路て眼力亦又通じけ
 人の相「うらふ」して遠く夕は「神州」とい傳あり朱良範、相法又妙なり
 を多信し、彼人帰國の時大明又強ひ強し。至明六年はして降朝「後博多の津
 又傳り人を相」て禍福を告ふ、狐亦約束の事有て齟齬とるやうく、我を
 降ひ相法を傳り、朱良範、神州の二所より及び此の人も、眼識少し具りて、
 大體これをもよふ、道うは、遠くは、此の思及下の嘆息しく、宣いた天倫又
 又兄弟の向より血を相傳不あり、容思の他、此の又た不二三をみる、又
 我又性又知る、此等兩の相さうく及ぶ、此の思及下の「心」く、民間へすま
 元来俗民之小児、民間へある人、又た早生の人、又た一國を流る諸族、
 多とん、城の重し、呼し、其、條の、縁と、又、六尺の、指を、振て、盡大地と

擧外ともし、け言、遠い、又即、女望、うら、不、以、五、僧の、若、以、此、を、は、(其、其、所、
 坊の、宣、入、不、非、明、乃、び、て、案、又、抄、ひ、く、虎、之、勅、が、素、願、又、好、乃、の、奇、異、又、
 あると、流、り、一、遍、せ、り、傳、の、目、を、九、美、の、備、り、り、此、初、末、大、又、貴、く、杖、定、せ、ら
 とも、ば、一、代、の、う、ら、に、天下、れ、諸、族、と、仰、せ、ら、れ、地、三、下、石、り、り、此、を、名、海
 内、又、震、ひ、又、孫、承、く、案、ん、ま、づ、其、相、を、云、り、面、長、く、鼻、高、く、龍、額、深、準、
 とて、漢、の、多、祖、皇、帝、此、相、之、眼、中、鮮、明、と、言、ふ、は、は、て、先、の、う、。其、は、は、て、
 を、又、郷、を、何、う、と、れ、情、同、狼、野、と、て、秦、の、始皇、帝、此、相、へ、高、祖、の、果、然、と、
 かく、天下、の、若、と、多、り、後、之、り、明、正、三、人、の、相、を、一、人、と、與、し、後、之、り、公、建、國、
 の、又、う、に、相、さ、る、小、又、即、女、傳、小、向、ひ、又、又、落、着、又、及、び、ぬ、と、い、若、俗、を、我、を、
 傳、ひ、給、り、我、を、我、に、過、偏、し、後、僧、も、甚、と、歎、ひ、三、思、う、ま、家、を、ま、き、又、傳、牛、馬、の、
 園、又、外、り、と、又、又、廢、へ、た、る、は、一、切、を、盡、し、給、り、え、り、東、門、の、黃、牛、を、り、
 我、の、故、系、國、吉、田、郡、志、比、の、名、承、平、寺、乃、傳、之、承、平、寺、乃、曹、洞、宗、開、基、久、我、



寺日記 勸修堂 五



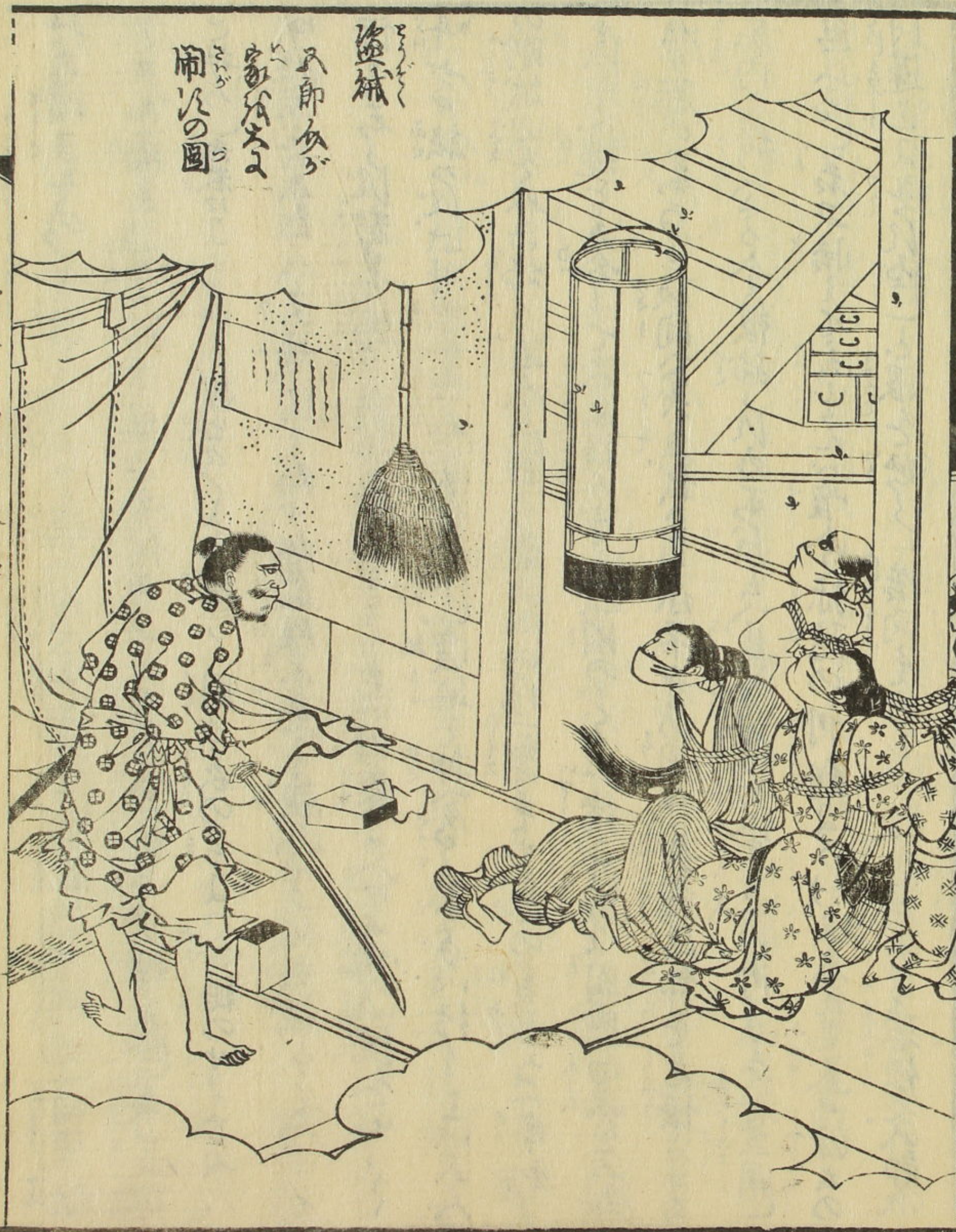
僧周曲
虎之助と
相づらひ
図

寺日記 勸修堂 五

右大納言忠徳の二男道元禪師と云。禪師二十に歳して震旦に渡り。大白天
 臺山如淨禪師の曹洞宗の佛心を傳授。隆朝の後永平寺と遷す。
 終に山号を香林山に。寺号を永平寺と名付らる。禪師十八世の法嗣。猶
 次和尙の才。法名。周典号。鐵舟と号す。是公。後。諸國。遊歴。の。物。詔。採
 細々と。傳。り。而。隨。方。の。勸。引。懇。々。と。終。り。既。出。ま。さ。ら。ふ。及。び。布。施。さ。す。の。事。元
 又。ま。ま。法。衣。を。拂。く。事。形。其。ま。る。徳。謙。勝。の。家。を。見。ん。か。か。い。く。
 完。法。ね。ど。り。矣。か。り。速。く。既。元。年。六。月。中。旬。及。び。或。日。又。召。ま。り。家。内。を
 檢。査。の。儀。ま。ま。は。續。々。武。郎。公。門。の。外。面。は。庭。を。築。き。涼。亭。を。居。る
 不。入。衣。冠。に。一。名。世。禪。僧。亦。の。方。公。出。ま。り。又。即。公。向。ひ。て。又。一。名。の
 因。心。禪。師。我。ま。ら。奥。州。に。旅。し。今。又。系。傳。を。登。り。小。國。に。歸。り。武。郎。公。は。た
 別。業。の。名。を。述。ゆ。晚。外。に。旅。し。終。り。武。郎。公。は。一。名。終。々。と。ま。り。周。典。に。歎
 焉。と。入。て。内。に。今。家。内。の。人。々。を。見。て。又。時。節。の。安。否。を。問。ひ。し。湯。と。を。い

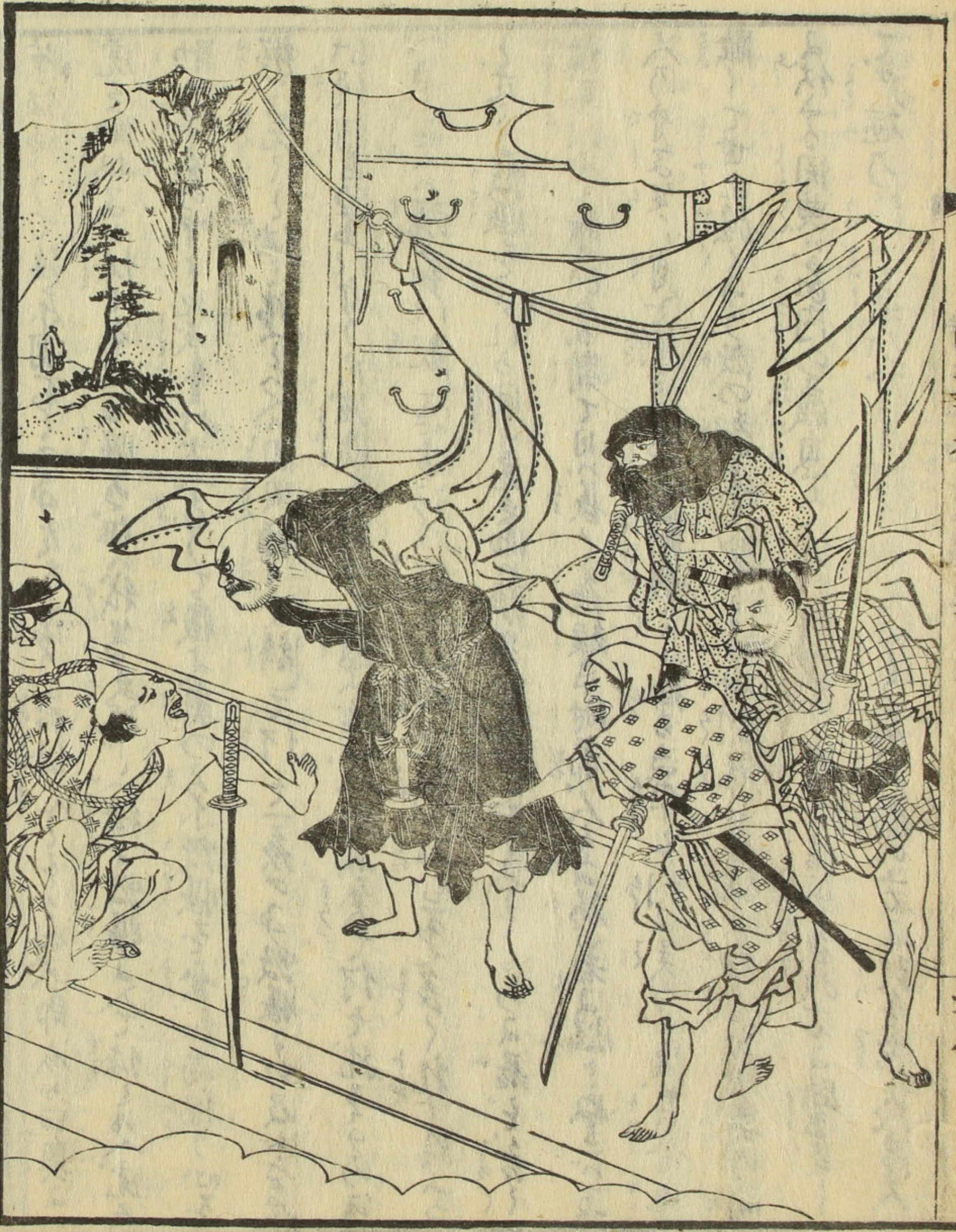
茶飯終りて後。樂園ののりたを語り。吾体人とする。時。武郎公が曰。奥の
 虎の助母が体と不れ。蚊帳を母。我を夫婦と一緒。蚊帳に入。て。体と人。虎之
 助の隣家の中。よれ。友。童。れ。方。へ。て。寝。よ。奥。の。る。小。蚊帳。を。垂。和。尙。獨。り。心。を
 綴。て。完。く。と。体。と。終。々。と。人。の。周。典。頻。り。と。辭。て。行。き。一。夜。の。小。蚊帳。を。及。ぶ。と。た
 け。何。れ。の。名。に。な。り。た。法。賊。を。被。り。て。懇。々。と。武。郎。公。笑。て。行。き。終。る。の。の。り
 べき。小。蚊帳。の。隣。家。に。觀。き。方。何。り。彼。不。に。寄。る。の。彼。が。好。む。を。多く。れ。終。る。と
 と。た。く。蚊帳。を。さ。し。る。回。は。虎。之。助。の。隣。家。に。あり。や。も。ま。そ。と。ら。又。居。と。終。り
 体。不。に。今。懇。々。と。斯。て。日。長。く。夜。短。き。時。節。人。々。は。極。暑。に。悩。む。ぬ。い。ば。ま
 人の身。又。身。と。例。と。と。違。く。軒。敷。く。と。擲。き。車。を。引。き。又。其。の。後。其。余。熱
 睡。て。世。と。強。く。う。蚊。の。蚊。を。せ。ま。り。耐。刻。既。又。西。儀。又。向。ひ。て。奥。の。間
 又。伏。する。周。典。の。家。内。の。履。息。を。伺。ひ。蚊帳。を。裏。て。這。出。表。れ。方。は。踏。ま。り
 て。戸。樞。乃。鈴。令。響。び。や。う。揮。り。用。ん。と。ら。耐。外。面。の。方。は。改。を。色。と。る。人

盗賊
八郎が
家へ入
りて
開きの圖



春三巴力高家五郎

三十九



山崎有徳九郎三郎

三十九

此大漢子をのく腰より刀を柄を後へ差はし戸より耳と付何れは周典徐
 と戸をゆき互に細浪流き合周典より刀をよみ懐中か襟を出入し表は後
 とおし裏はより日く損出りとと際ノ固め表のより合進の才より人
 中此間より入即女夫婦虎を助が母若後不えは後入る所改帳をらりて
 何うも此教業一捨て教の上よりうくまは月鼻より口は固び髪を切り
 叫ぶは袖のけけ時悪黨一命よりを「腹地と押へるより小多に終り上げ入
 の剛絨刀をぬき始り又今此目の糸は「つけ一髪より息の善奉るは率利
 止しと種とを令りて去る板を中は「園のどく一緒は終り周典白刃をみ即
 女が膝の着る板間へ突立我は元永平寺の周典長老活佛を見惚らる
 家内は娘へ「今銀持はる所へ長老自ら金を乃御心を受用
 終り空し若又悟りてととんば唯今弥陀の利剣よりけ入人女妻養澤去の
 同違よとを以て」と眼を好く「浩向をのみとま比い希なる悪徳を即女

女は驚き悲し憐れみ既をたげて何れ周典は絨の首飲と見へる余に人が
 其容の清完悪の敷塊よりいおき惟るを纏ひて毎に電光石火
 あり利刀を掲げ両婦を又分りたが胸の透りに程端を指付今利
 殺と云き氣をよと入即女周典が暴悪を懐るとつた驚を板も程の力よ
 き虚弱の人些少の令根を喘と身を振り人を傷む世の笑ひのこの親
 念し放て幸りて我家漸くそ日の標を立ち斗の身と何れ余討の
 彼へ入る奥の回押込の櫃の中より銀入黄目張十貫文新奉徳納りて
 漏れ入り又葛籠にツツ又家族が衣取の之銀張衣服をまきりて
 指ゆり衣取くは家内煮く披「見られは家族の者を表てそ人傷と家
 らはゆりゆりゆりゆりの標をヤク周典は西園の小絨より力をおせて入即女
 婦と身らせ自女人の小絨を連奥より櫃を様「銀張をまきりて小深
 て入即女をよ遠り衣取乃葛籠を引抜きよの衣服十餘貫一ツ葛

籠に丸収め周典小絨をよむい亭まがむ性甚い座はして仍久きはの孫
 丸外に冷報匿たる不の月知まがむ此を毎に不様とまじとて毎に燭
 又灯と接をにりて細子場の遠表此向の板敷とまじとて燭は濁
 砂に披見ふ曾て余材あるはさらばあまき座とて今とれとて後
 此の村一箇の小絨又件の葛籠を背せ周典法敷して悠くと出法悪とま
 外流す

後まじい周典とて禪修とて儒佛のる博くまじ人相とて猶
 福を告るま深く遠まは猶とた放蕩はして酒多飲好と悪談と淫
 て盜賊の首領とあり山道海道を徘徊と今態坂と名も世悪業之
 其後まの桑門の人酒まは淫靡と若集り屬をませりとうや

根張化鬼斬兎絨條

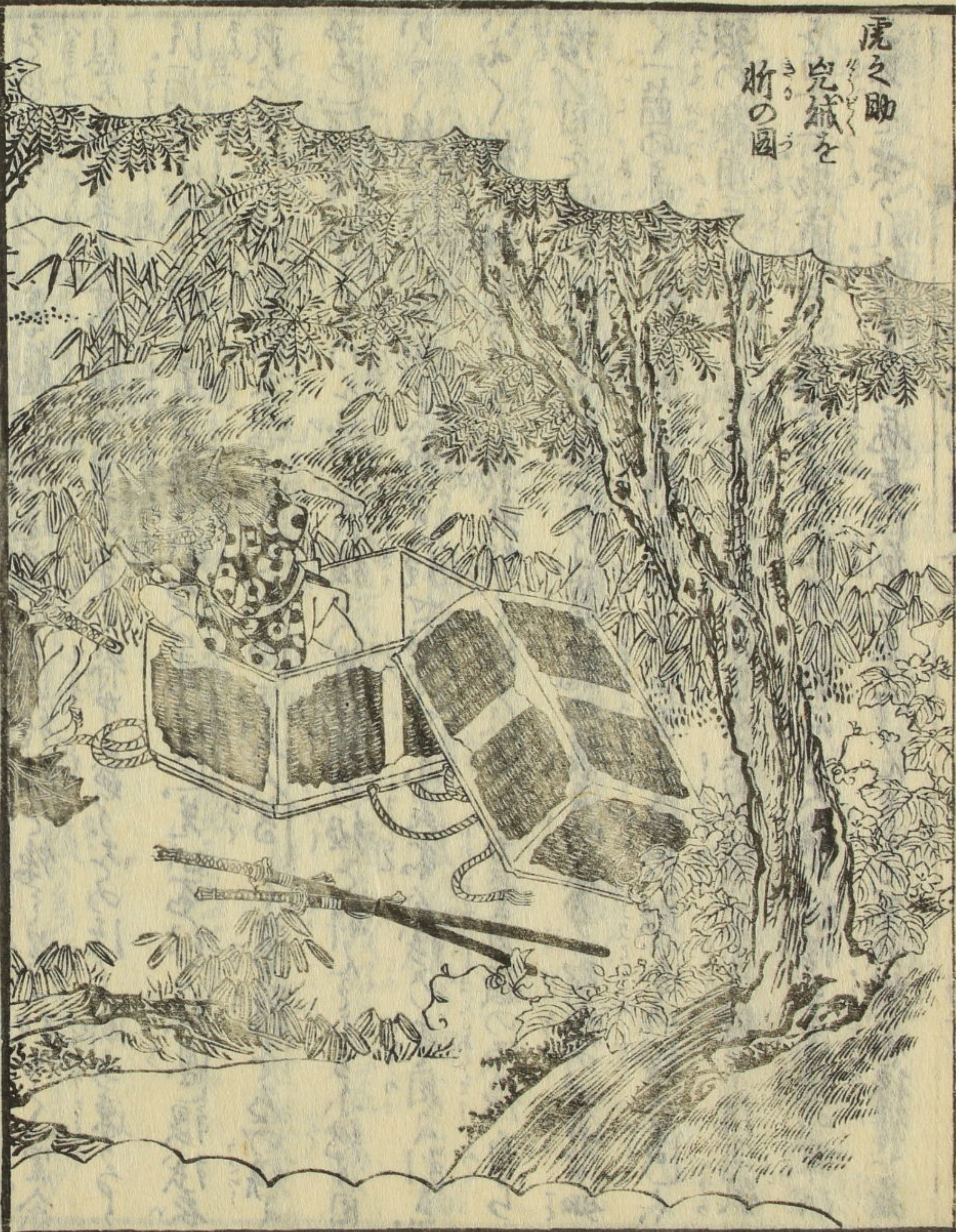
かくて又人の兎絨た焼家奴人の大膽も材とて後い多勢と進まて

を思ひわりのく葛籠を負遠道へま後路を修も是は但せく一里余
 息を切てまら葛籠を負てい争く谷中まあをのほく脚歩速うら
 以周典小絨を顔とま又進まけるへ来るは先けあて休息根張衣
 敷を面くは脊負同ま中うはて約とて人等く葛籠をるの儀
 抄に河邊にりてあを飲も其後一人葛籠の紐と解んとする小絨と目
 かく紐とりの周典を我力に任せ繁とる小表系分張の争目と引き
 いよく解て解のうらん勃我解くははと力量自股の悪徳自ら
 結び目を緩め蓋をまき這いりく葛籠の裏に叫ぶ少一怒狼の嗥吼が如
 く一箇の赤髪をたて懸て躍出の赤髪面とて覆ひ眼の冷と冷しく
 狼の額角天を向ひて指本のく面を赤をみて百入塗とる斗傾く月を瓶
 を見まが物流まの礫をまき松たう流石と大膽の絨修も流狼の嗥び
 又耳をまうれ呼とて尻尾に何とまとる不張被鬼張解とて



清三郎力子捕虎五郎

四十一



虎之助
宛城を
斬の國

清三郎力子捕虎五郎

四十二

め。拂子と園子と指差さるは、數乃若ありて己が術は、恐るる時、を在るを
 知りて、たゞの信をうらうよと、心よきひ、うと、麻葱のつりも、まのく、隣家へ
 集りて、腰よと、何れ、奈、お、神、を、ま、度、を、を、乃、拂子、を、三、階、より、派、文、を
 及ぶと、息を、浩、放、を、吸、き、く、何、れ、不、深、て、に、人、乃、盜、賊、を、を、引、入、り、被、索、者
 くり、取、合、を、ま、は、う、お、打、倒、て、引、結、を、思、た、相、手、い、入、人、而、も、刀、を、抜、て、坊、主、を
 ころ、誣、出、て、り、ん、け、内、外、を、過、り、み、ん、を、怒、ま、高、ま、こ、か、何、れ、不、以、葛、籠、を
 開、き、根、張、衣、服、を、ぬ、め、余、材、の、匿、を、と、撰、ん、と、表、れ、方、ま、り、」
 潜、奥、乃、向、又、
 場、を、三、を、幸、長、お、の、中、より、天、王、宗、の、鬼、の、假、面、を、縮、絲、を、被、り、竊、り、り、り、て
 根、張、衣、服、を、外、に、移、し、葛、籠、の、中、より、刀、を、偃、蓋、を、て、居、る、を、に、一、番、路、の
 鳴、り、凍、り、軍、心、忙、て、り、ぬ、れ、と、葛、籠、を、脊、負、表、し、條、を、引、ち、り、は、路、を、
 し、互、よ、つ、を、守、り、跡、を、追、人、怒、り、ぬ、り、松、明、乃、光、り、刀、を、ぬ、り、忙、て、睡、路、を、踏、り
 ぶ、り、息、を、切、て、進、む、を、受、我、れ、に、懐、き、申、す、佛、の、遠、奴、を、ま、り、恐、り、又、又、さ、る、腹、

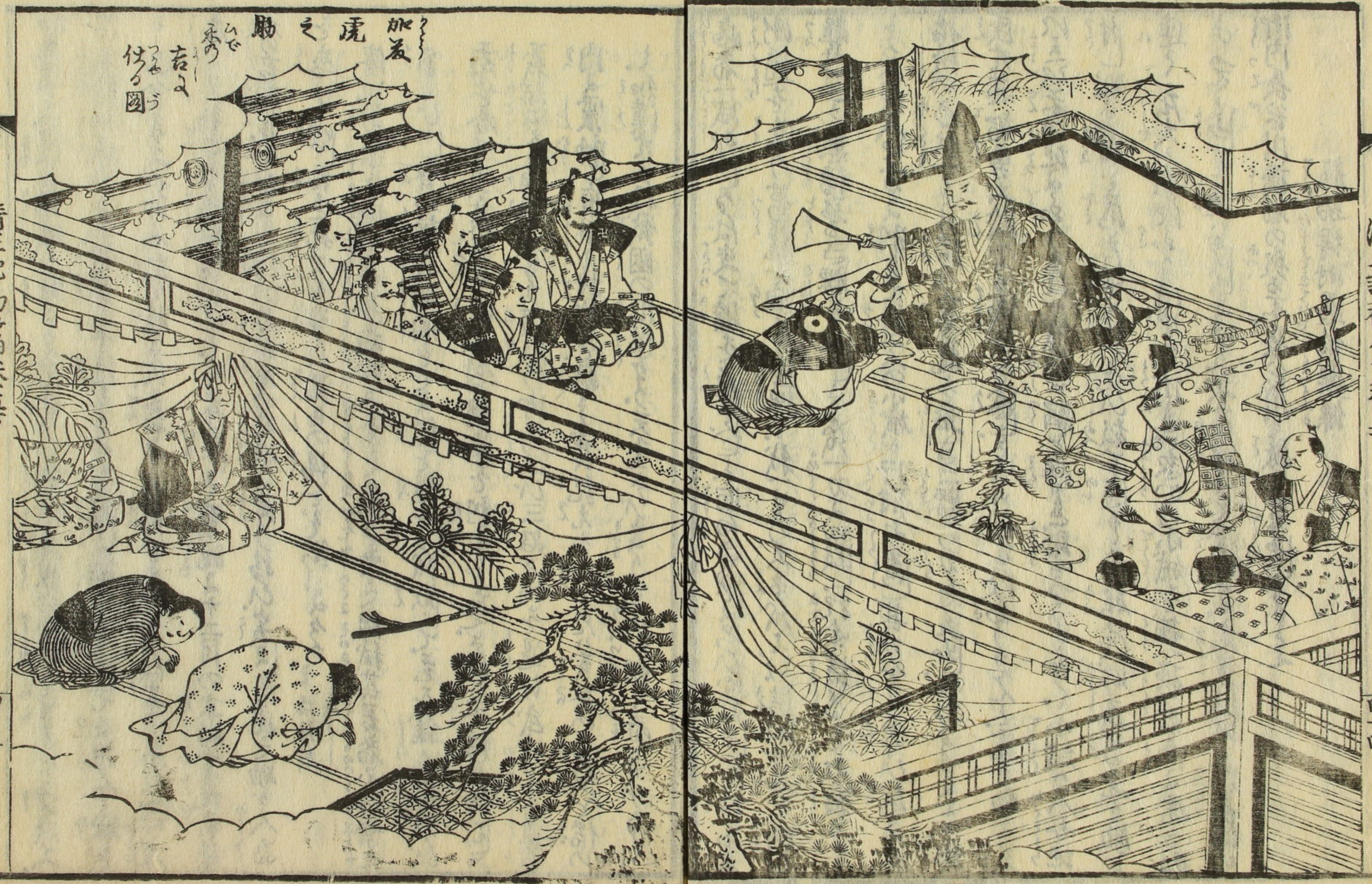
病者一風おどるは、皮を、腹を、飛、走、し、と、面、白、き、の、よ、め、の、心、巧、し、て、結、不、ぬ
 御、道、を、ま、り、葛、籠、と、開、く、と、途、く、我、一、生、の、大、事、お、よ、げ、遠、奴、が、耳、と、叫、び
 龍、耳、じ、う、悪、僧、登、り、腰、を、ぬ、り、る、刀、を、切、敷、」
 於、余、盜、者、を、打、殺、し、ん、と
 ころ、ふ、に、人、に、方、を、別、して、内、二、人、の、小、城、が、行、時、お、海、」
 其、刀、を、り、奪、ひ、還、さ、り、
 始終、の、の、状、く、は、流、り、葛、籠、を、被、き、三、腰、の、刀、を、を、ぬ、り、見、せ、る、よ、で、郷
 民、其、智、勇、大、膽、を、る、働、き、を、感、じ、と、ら、ば、彼、不、に、お、り、刀、を、と、虎、之、助、と、光
 け、三、以、前、の、地、ま、り、ま、り、は、城、僧、の、腦、と、確、し、助、さ、る、も、方、く、小、城、に、人、を、地
 附、し、お、り、財、と、落、さ、れ、死、と、吃、ひ、殺、て、進、む、も、り、龍、乃、郷、民、を、虎、之、助、と
 連、り、虎、皮、が、家、に、お、り、け、は、を、折、し、お、り、忽、ち、の、小、城、を、捕、へ、換、り、と、同、く、虎、之、助
 ぶ、り、不、し、也、」
 且、遠、い、ざ、り、よ、り、又、官、程、を、違、」
 多、る、元、来、け、地、の、信、長、師、の
 御、内、長、谷、川、橋、助、の、親、を、お、長、谷、川、と、孫、と、堂、渡、」
 多、る、と、

龍駒得財遇伯樂條

虎之助
吉之助
伴之助
吉之助

青正記力高巻五下

四十五



清正記力高巻五下

四十四

加友虎之助既之兒城を斬るる強り、勢州尾張の小姓を討つるとて、
 其年幼幼稚なる小智勇卒終つるるを感福を奉じて石抱人欲と
 るとの我義又公即公故て、德とびきて、十ニ歳に足りたるは、
 廢する家系と貞僕を、とて、其年、既之十二月の末、
 奉旨、朝臣を母を訪ひ名古屋の古後、奉り給ひ、
 是を、を委、とて、始とらぬる君臣の功とぞ、
 傳曰、系之國、其若者必多、系之國、其若者必多、
 家といひ、脊の桓と云、周網とて、紀と終とらぬ、
 天下と合せらる、其家を、原る、
 義昭公を補佐とす、阿波の御所、及び三好、
 内之震勅、雍州、及び旗旗を、其紀元を、
 知漢、たこれ、我國の、風俗、

征夷將軍、義昭公、同あり、去る天、元元年、秋八月、
 威を、輝、つ、移、ひ、今、上、正、親、町、天皇勅、
 二十、陪、城、名、乃、朝、金、系、系、
 後、長、政、又、日、ト、く、堅、氷、の、大、陽、に、向、か、
 後、武、德、追、日、聖、たり、
 又、徳、丸、尾、張、伊、賀、伊、豫、志、磨、三、
 河、内、十、五、國、の、守、と、
 次、才、と、傳、
 武、勇、智、謀、凡、人、の、
 繞、る、が、
 長、光、寺、
 十、五、國、長、光、
 長、光、寺、
 十、五、國、長、光、

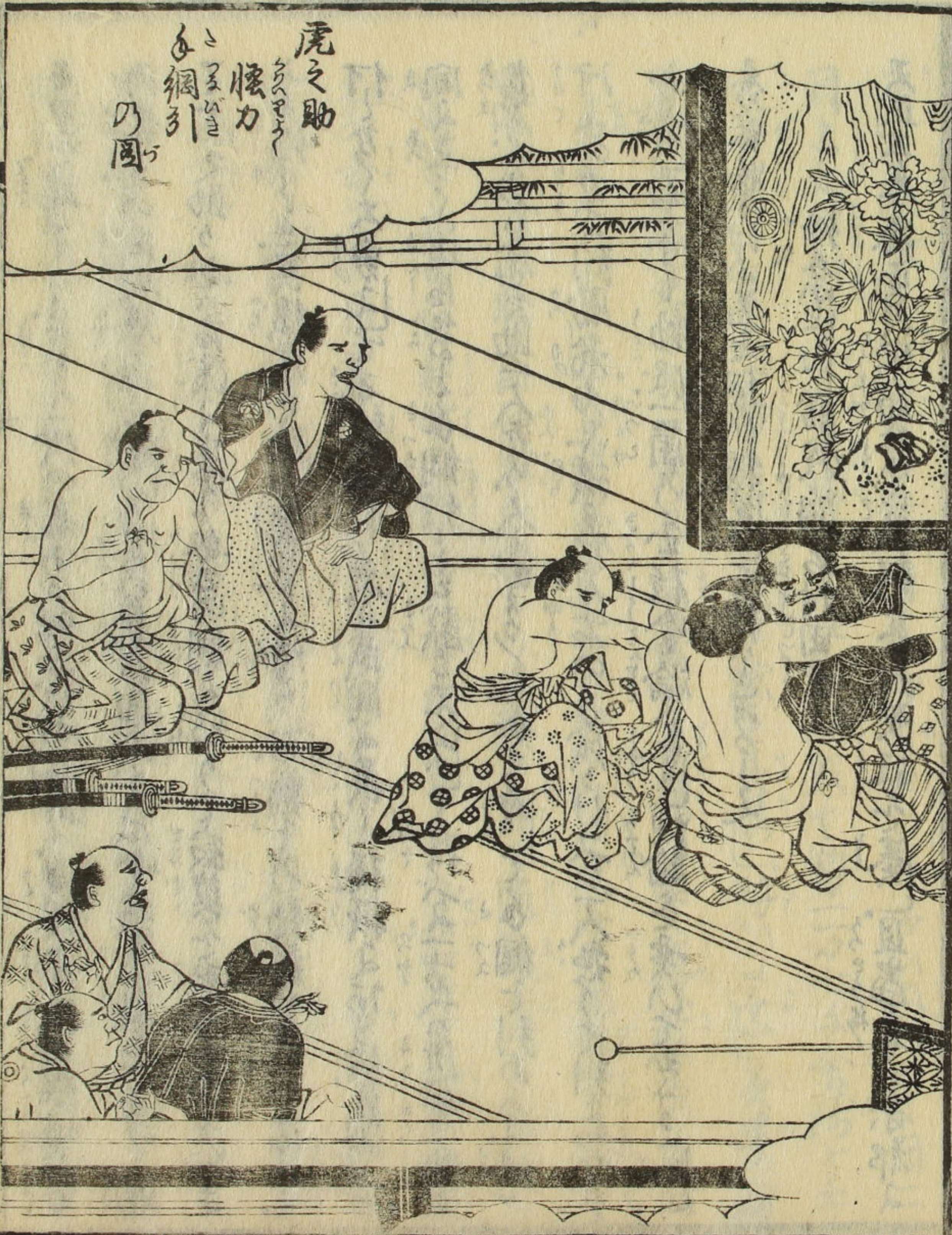
征夷將軍、義昭公、同あり、去る天、元元年、秋八月、
 威を、輝、つ、移、ひ、今、上、正、親、町、天皇勅、
 二十、陪、城、名、乃、朝、金、系、系、
 後、長、政、又、日、ト、く、堅、氷、の、大、陽、に、向、か、
 後、武、德、追、日、聖、たり、
 又、徳、丸、尾、張、伊、賀、伊、豫、志、磨、三、
 河、内、十、五、國、の、守、と、
 次、才、と、傳、
 武、勇、智、謀、凡、人、の、
 繞、る、が、
 長、光、寺、
 十、五、國、長、光、
 長、光、寺、
 十、五、國、長、光、

に小長渡の城を又城前國朝倉隆泰の大目兼波九郎を誘致終と桂
田攝摩守長俊と改つて一系谷の城を以て城前の守護代を兼とせ
京都にて村井長門守を以てその所領の事を兼守護代と改む所方
二年の夏長渡原に在り一年の京都を出て政務を改むるべきに當り
同二年十二月中旬申下後若即秀吉に州長渡を威末の河津を以て
余吉の湖水の鮒を献じ臣既又由三月以来長渡に在城住る小渡井家
兼吉の余部は小不くに在就中去年九月長政公の生喜の御所は家乃
家長渡井佐渡守日向守池田守後守平井佐中守行相肥後守
多山左衛門佐中守新左衛門七人の若丸小谷三の丸の被又出をうけ煙の
中にて切腹のよし源系長者やせよより実の御所と改む既又長政又
み毎又各名若の首の交換は人なること大目兼波の焼死の部は凡
河津又入を以て不し軍已が味方をも偽き切腹の辨は凡せ實の城
を道と出城前又強と朝倉兼吉の軍を誘ひひる七百人の兵と
よ下と去る十月十七日の夜其某の致る不乃長渡の城を不意に夜撃し
て兼渡さんと中河内にけ方椿井坂と云ふに會合はるは「既」る列
く戦ひは城下の男女同輩は「既」とも勢入百余騎を勝て送らせ
兼吉「不保」て日夜子の刻増や柳が瀬の名も夜討の勢は如命
一戦又打破るそ夜首と成るゆへ又百七十余級池田守後守行相肥後
中守新左衛門三人を討え城に人無き其堂の若丸不意に殺致は「不」その
のらに州被不け不又強と匿むは「既」る濱井去佐也日向守平井佐後
守多山左衛門佐中守人入る不又入るに「既」る「既」る「既」る「既」る
一乃又平均仕むと云とせしむる信長御河津佐藤新左衛門河州平均編
又汝が切よよとす唯今か羽柴兼吉守と改め戦勝を許し平秀吉と
名乗る「既」即新左衛門國光の御を刀をを賜りたる秀吉を謙る

を道と出城前又強と朝倉兼吉の軍を誘ひひる七百人の兵と
よ下と去る十月十七日の夜其某の致る不乃長渡の城を不意に夜撃し
て兼渡さんと中河内にけ方椿井坂と云ふに會合はるは「既」る列
く戦ひは城下の男女同輩は「既」とも勢入百余騎を勝て送らせ
兼吉「不保」て日夜子の刻増や柳が瀬の名も夜討の勢は如命
一戦又打破るそ夜首と成るゆへ又百七十余級池田守後守行相肥後
中守新左衛門三人を討え城に人無き其堂の若丸不意に殺致は「不」その
のらに州被不け不又強と匿むは「既」る濱井去佐也日向守平井佐後
守多山左衛門佐中守人入る不又入るに「既」る「既」る「既」る「既」る
一乃又平均仕むと云とせしむる信長御河津佐藤新左衛門河州平均編
又汝が切よよとす唯今か羽柴兼吉守と改め戦勝を許し平秀吉と
名乗る「既」即新左衛門國光の御を刀をを賜りたる秀吉を謙る

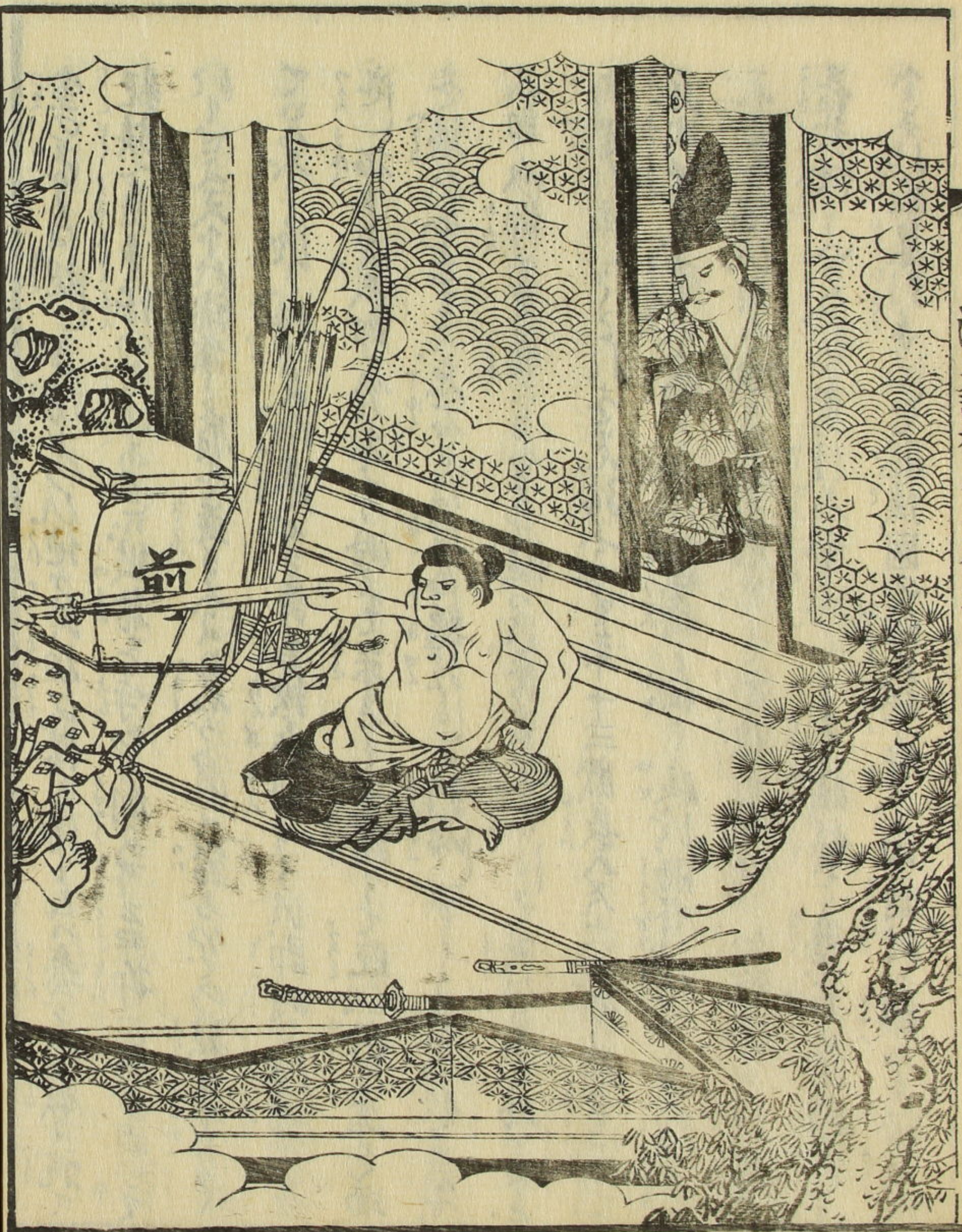
夫は世に卑性の某姓を以て下さるる家門の養を承代り孫の面目を以て
 厚く恩を附して退出は是の三日過留を後服たまりしに於て是の老母を
 訪ひ尋りて哀言言して尾張國へ旅らさるる。抑け此の世に身を委ねて
 の毎こと申し、持統天皇の息女、筑前守の妻、阿蘇守の妻、阿蘇守の
 州長湊の城を賜ひ、阿蘇守の妻、阿蘇守の妻、阿蘇守の妻、阿蘇守の妻、
 後石は本國の名跡も惜まれば、今法に於て争ひをせしむるは、古来の
 以て地は法に於て先妻尾張の國なるが如く、親しく今も多く、城を胡
 馬のどし、會款とて、友郷とて、あふり、去羅は、終るも理方、委吉も
 故て、過り、終り、侍女、教多副て、表は、最も、終る、十二月、阿蘇守
 守は、教多、會款の、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、
 里方、城方、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、
 城を討たるる、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、阿蘇守、

室のあり、親しく、物とて、他が、外祖、父、信を、清とて、妻が、内、厭は、就て
 親族、秀吉、縁の、由緒、ある、彼者、を、呼出、例は、可、並、抑、一、國、で、國、の、重
 い、せよ、天下、此、諸、侯、と、肩、を、並、る、人、の、若、が、身、は、若、る、如、の、能、長、や、た、く
 て、い、え、う、と、終、る、と、仰、使、へ、る、秀、吉、教、多、斜、た、る、に、即時、は、傳、信、人、を
 遣、し、招、き、又、即、使、い、え、う、附、て、も、来、と、雀、躍、し、て、悦、び、於、て、虎、之、助
 を、誘、ひ、出、來、さ、べ、た、右、は、近、江、龜、井、と、して、列、居、中、は、若、の、親、は、派、す、
 又、即、使、仰、で、其、面、を、見、る、る、能、り、氏、秀、吉、先、亦、と、して、笑、ひ、虎、之、助、と、る、は、
 座、を、以、て、居、し、く、こ、し、を、見、終、る、は、生、年、十三、歳、長、尺、六、寸、背、格、を、以、て、
 身、肉、堅、く、髪、大、と、悪、く、肥、に、腰、痛、と、細、く、腹、は、肋、骨、板、の、と、く、列、り、肩
 天、倉、を、拂、ひ、目、を、腫、ま、い、冷、先、夜、を、衝、睛、を、下、せ、ば、紅、輝、地、を、付、か、如、く、
 若、武、飲、い、へ、う、我、家、の、柱、石、勢、よく、と、其、類、發、と、摩、若、長、の、酒、壺、と
 下、さ、し、家、系、列、り、と、して、肥、後、國、の、垣、人、延、壽、を、節、國、村、が、能、る、秘、苑、の



吉原力

四七



清正言

四八

ち力を賜りて其の真一二代の君あり。僕の高祖の樊噲蜀
 の若重の関羽張飛の陪（いし）。其良臣又即父及令根其腋（ひき）と多く賜
 べ。虎之助が如く右後（みぎのち）と来り。母云の側（わき）と侍りて。敵軍を怒り来り。次（つぎ）
 より侍りて。其後虎之助と近習（ちかじゆ）と侍ら。其勢の勃發と試み給ふ。
 何となく大勇はて才智使り。又又民間は長し権操（けんさう）と侍ら。武討次（ぶたうじ）
 間（ま）と生り。道臣（みちのぢ）多しと綱引（つなひ）とを獻（けん）とをばて。侍りて一方は道習（みちじゆ）と緒（つづ）
 集り。一方は虎之助一人あり。今かましく出て。侍りて。綱（つな）と引（ひ）のふ。他が
 行（い）の力（ちから）は勝者（かち）あり。後（のち）は左右のふ。けり。二人怒りて引（ひ）つ。大
 を墜（お）し。一寸も動（うご）か。一箇（いっかん）乃玉授令論（たまづか）をせ。地論（ぢろん）を貴（たが）ひて。出（い）で。如（ごと）
 秀吉物（しゆぎもの）うけ。か。と。個（ひとり）ひ。獨（ひとり）決（けつ）て。歎（なげ）か。と。さ。る。と。ま。

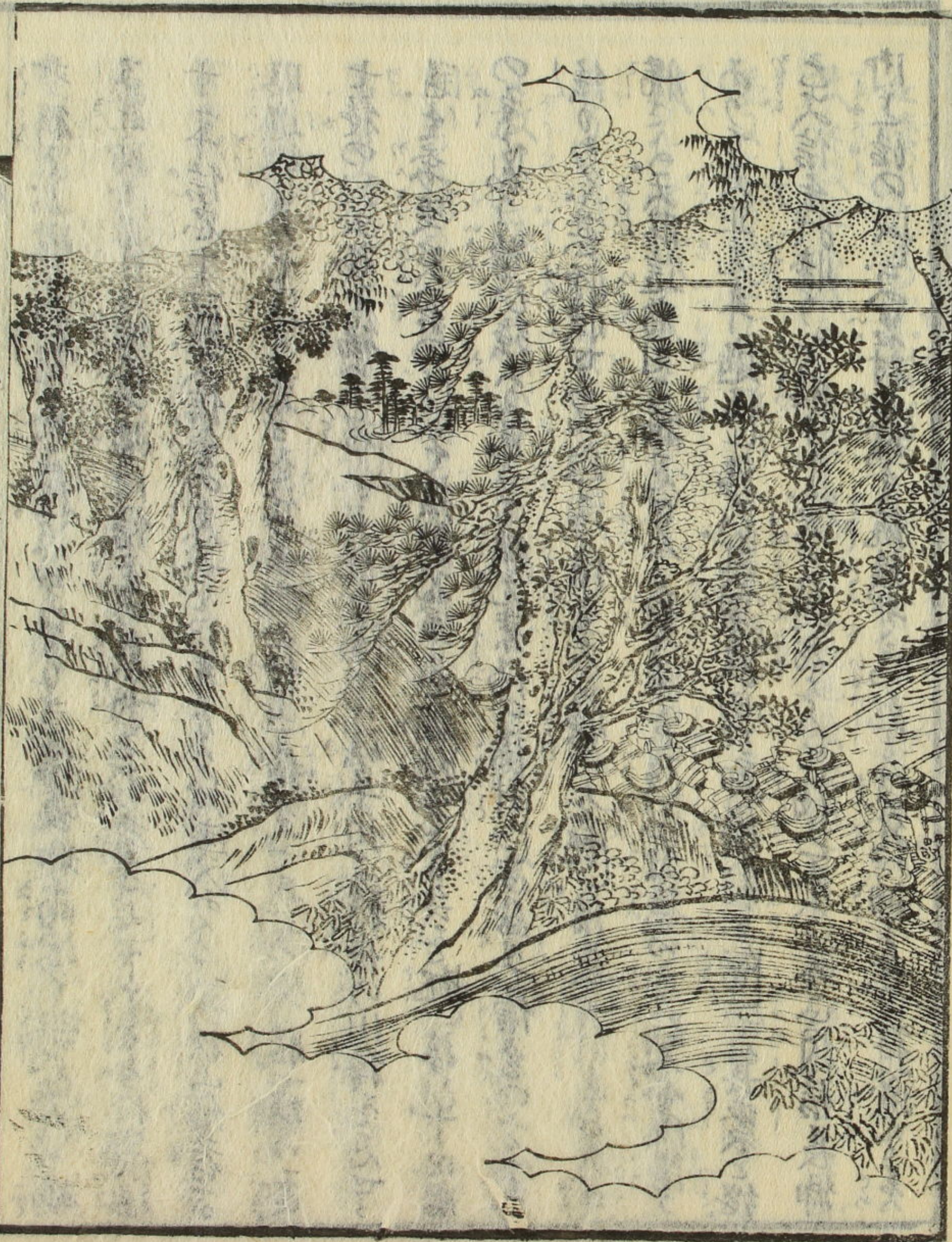
修承に即勝於陷岩村回幸

天正三年春。正月。中。向。林。森。裏。新。幸。此。賀。祝。を。奏。且。當。年。の。系。部。よ。

進（ま）して政勢（せいせい）をば。百（ひゃく）と入る信長御上清（しんちやうごじやうせい）を遂終（すいしゆう）ひぬ。然（しか）る。二月。二
 月。上。向。甲。州。乃。右。身。武。田。修。承。に。即。勝。於。勢。一。万。七。千。余。騎。と。幸
 し。甲。府。か。ち。て。出。番。三。州。兵。助。の。城。を。表。裏。勢。ひ。の。原。兵。助。の。圍。
 岩。村。田。の。城。を。幸。二。日。乃。召。ふ。忽。城。を。表。裏。一。圍。野。於。里。乃。取。城。
 と。表。裏。と。し。よ。は。三。州。の。城。は。小。田。家。の。屋。川。原。与。兵。衛。尉。重。遠。於。里
 の。城。は。池。田。勝。三。郎。信。輝。を。金。さ。り。取。城。か。ま。馬。を。籠。接。兵。を。召。清。に。召。さ。る。
 小。田。家。か。武。田。家。の。親。婚。の。眼。と。あり。抑。武。田。家。を。一。信。和。源。氏。八。幡。を。即。表。
 家の。合。方。新。羅。三。郎。義。光。乃。弟。孫。武。田。を。即。信義。始。り。て。甲。斐。國。乃。守。
 護。と。あり。ま。か。十。代。の。後。胤。武。田。大。膳。を。表。裏。信。入。道。信。玄。の。乃。又。通。達。
 せ。る。名。召。され。其。心。る。又。背。き。親。又。信。虎。を。他。國。遣。出。國。と。押。出。入。生。不。
 義。の。大。事。と。ま。つ。ば。合。戦。の。法。に。我。親。の。孫。玄。孫。也。兵。法。の。達。者。と。れ。又。
 秋。討。者。と。び。ど。と。ま。り。信。州。の。村。と。義。信。小。笠。原。長。時。と。我。い。負。く。

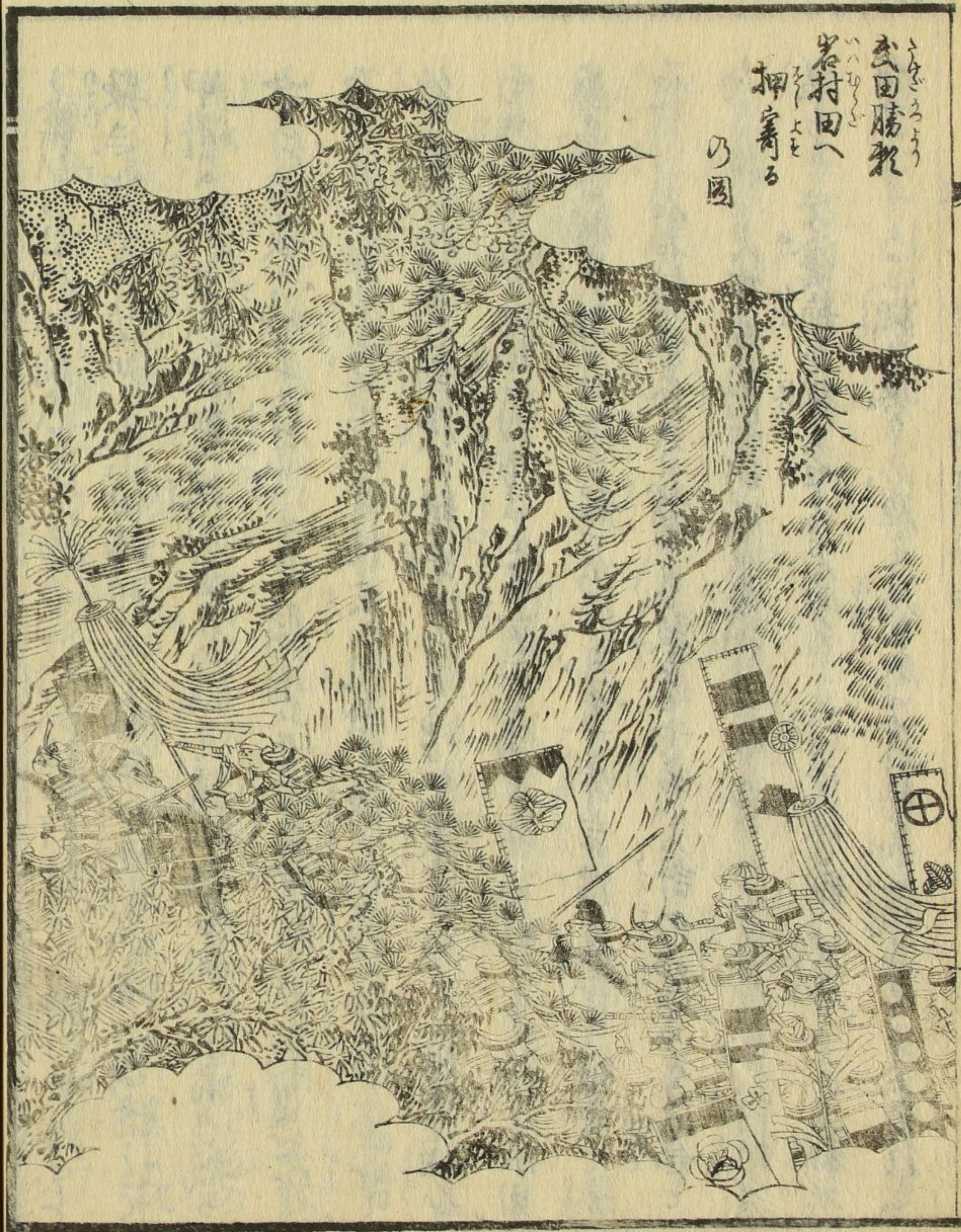
國を奪ひ、中にも信州流防の城に流防信長守り置、自分の伯母賀
 かつを泊て呼せ、酒宴の席は豫樂と備へ、行心方く見物とるところと
 利害をなして殺害し、息女を妻にして、是が腹は男を後け、是武田に即
 勝れ、信長の所奉妻とす、轉法輪三條家の姫君を腹は男三入あり。
 嫡子の武田玄節、信長次子、流防、其次は葛山三郎、是流防の舎兄也。
 けんと指立て、獨り勝れ、つと電燈、これ家督と譲りんとせらる、
 よう嫡子信長とす、その中忠は信長終り、父とて、こを母にす、
 不に殺害し、是より、一軍一は、三男三男と譲りて、勝れを家督
 とし、既、是も、信長郷に、今川義元と討、後龍興を退、退け、尾張
 尾張を定め、いま、義昭と迎、冷い、う、以、兼、い、希、都、は、う、に、海、の
 恥と、信長、且、一、万、民、の、若、惱、と、怒、り、天下と、覺、は、せん、との、大、量、あり、義、は、旅
 て、思、急、と、巡、り、し、信、長、と、の、先、功、の、古、兵、と、境、と、交、へ、一、の、國、を、犯、さ、し、是

と、戦、ひ、る、一、代、の、向、大、軍、と、逆、る、つ、つ、は、行、換、り、は、信、長、を
 欺、き、和、分、り、は、如、し、と、小、田、掃、部、成、と、是、希、は、五、數、の、希、と、後、者、と、て
 甲、州、に、逃、れ、某、の、妹、聲、流、州、苗、本、の、城、を、遠、山、勘、左、衛、門、と、是、希、の、彼、が
 女、は、信、長、が、姫、と、密、を、言、一、腹、の、者、と、是、希、女、と、て、勝、れ、進、せ、
 あり、と、懇、懇、と、言、送、ら、れ、る、信、長、も、見、え、と、誘、り、出、附、若、の、右、衛、門、
 稱、と、たる、信、長、は、斯、様、と、懇、懇、せ、ら、る、の、希、の、言、と、て、勝、れ、獨、り、
 是、後、は、い、て、彼、女、性、男、と、出、せ、是、と、武、田、玄、節、信、勝、と、云、せ、く、小、田
 家、は、お、獨、り、種、は、送、り、物、せ、ら、る、と、是、希、丁、啼、言、語、は、絶、せ、り、信、長、も、流
 石、智、の、右、衛、門、信、長、美、美、は、我、を、殺、し、る、や、若、く、は、計、の、あ、ら、う、の、念、と
 入、る、所、は、力、も、也、と、内、内、院、の、不、は、藤、相、つ、る、る、と、是、希、腹、中、採、納、と
 送、ら、し、る、塗、箱、を、削、ら、せ、り、と、是、希、は、是、希、地、制、中、田、と、是、希、地
 方、の、一、つ、り、は、叔、の、真、と、是、希、念、と、入、る、真、美、は、殺、し、る、と、是、希、は、是、希、と、



清正記力高巻五下

五十二



武田勝頼
岩村田へ
押寄る
の図

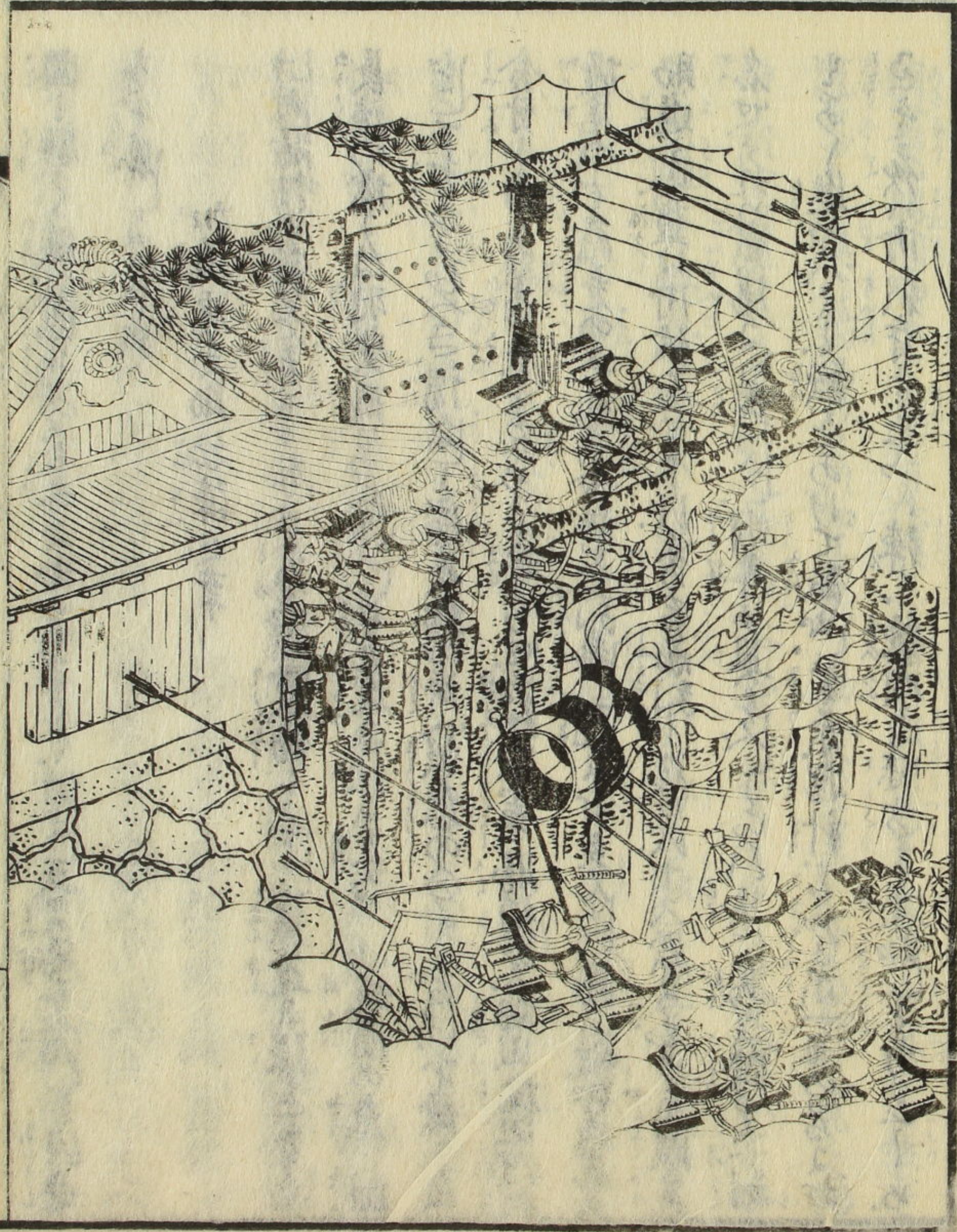
武田勝頼
岩村田へ
押寄る
の図

打解く。小回りの能く交り能くはるる。信長郷尚ほ討んた。婿
子奇好。清吉。信忠の嫁に信玄の息女を。十歳より。水福
十年。信忠十一歳。又信玄の息女も。同年。清吉。秋山。宿若。若
晴。道。與。分。て。送。り。来。る。を。信。長。郷。秋。山。に。馳。走。七。八。三。の。懸。懸。七。畝。の。孟
七。種。の。別。出。物。と。揚。り。杉。可。六。月。を。り。い。波。阜。川。に。船。舟。の。川。將。を。見。せ。り
と。を。委。交。実。客。の。正。に。其。後。船。將。軍。を。補。佐。て。兵。を。配。し。十。に。國
の。重。し。き。勢。は。強。大。な。り。て。後。元。末。傳。の。謀。計。し。う。曾。て。信。玄。の。方。へ。書
信。り。る。其。書。讀。せ。ら。る。に。より。信。玄。大。に。驚。り。を。配。し。信。長。に。計。し。る。の。口
情。と。よ。天。膳。遠。者。目。と。揚。見。せ。んと。怒。り。る。と。改。り。有。提。の。形。人。會。限。り
あり。て。天。正。元。年。逃。法。し。其。男。武。田。に。即。勝。於。家。留。て。箕。永。衣。と。繼
之。又。信。玄。に。懐。り。と。懐。き。んと。書。り。同。者。を。心。て。伺。ふ。不。今。年。正。月。信。長。郷
所。上。信。の。は。し。又。岩。村。の。城。を。流。後。守。病。死。と。受。託。し。押。し。せ。岩。村。城。を。夷

兵。續。い。く。る。時。明。智。の。小。城。に。行。場。と。替。替。の。桑。の。系。を。食。ふ。か。て。く。く。
攻。む。は。阜。の。城。を。し。居。り。流。後。守。張。支。團。と。も。に。は。け。我。ら。矣。た。て
並。よ。と。方。公。士。と。書。振。い。せ。目。末。傳。を。心。て。先。考。信。玄。を。偽。り。る。眼。を
頼。ん。と。軍。法。一。段。し。て。系。出。せ。り。元。末。智。畧。の。信。玄。よ。り。及。び。と。又。武。勇。一
通。り。と。於。て。い。し。と。方。公。士。將。士。岩。村。の。城。に。攻。む。る。と。信。長。に。城。下。一。面
を。放。火。し。猛。火。を。燬。す。男。女。を。擲。え。る。を。傳。り。て。城。外。に。押。し。せ。し。城。と
開。い。て。降。る。の。は。は。き。討。り。里。氏。一。人。も。お。さ。し。無。き。と。せ。んと。書。り。い。ら。攻。む
責。ま。る。元。末。智。畧。の。目。末。傳。流。後。守。の。去。波。の。一。族。信。長。郷。尚。ほ。中
乃。伯。母。智。畧。の。正。月。中。旬。に。病。死。せ。り。と。傳。り。い。ま。ご。幼。雅。は。て。城。中。喪
を。行。場。に。擲。り。捕。或。り。切。居。を。見。ん。城。中。の。兵。九。日。を。勝。戦。の。武。勇。隊

つゝ赤保とて虎と掃とる荒人... 推合踏合... 頂腹秦の... 逾は... 進を大おと... 身をらせ... 息を... 百人... 多う... 件へ... さら... 討

死とる者... ば... 宴を... を... の... 修... 元... 下... 余... 三... 从... て... 城... 中



奇蹟己方不原

五十一



勝れ
るの理の
城を圖攻
るの圖

清正記不原卷五十一

五十一

圍之解く後、籠名の雲舟よ出るるごとく、はは又馬を馳し、追進をぞ必しとあはれ

加茂虎之助初陣之末

けし討勝れ、岩村を去るが如く、又遠國震動とるは、遠近に張とちく、長湊の城は、羽柴統元守に、石近き地を去る、熾眉の急を扱、してあさうひき、謂はしと信長卿の許へ、救應のめを告げ、本城は、舎分小市郎秀長をとり、守らせ、おぼゆる軍、勝頼、福田、徳川、河、堀尾、など、虎之助の兵三、余騎を引、降し、既、打三人、は、加茂虎之助進、山、真、河、佐、を、中、以、秀、吉、取、引、結、り、氏、十、八、歳、は、り、元、辰、寅、名、せ、れ、は、戦、場、は、速、に、明、年、の、具、置、と、い、ひ、捨、て、馬、は、踏、り、一、刻、も、あ、く、進、め、ん、と、報、を、あ、げ、て、延、出、し、秀、系、指、針、を、控、保、一、日、の、り、お、こ、を、疾、に、河、新、守、と、い、ふ、に、陣、し、黎明、は、味、方、を、下、知、し、お、打、し、り、

朝霧の晴向、向を急と見渡せば、霧の取立高く、寒け、若、兵、と、既、進、む、若、あり、これ、加、茂、虎、之、助、の、秀、吉、馬、上、か、る、怒、り、虎、之、助、か、は、行、旅、を、去、り、ぞ、伏、侍、の、河、新、守、也、多、く、い、は、し、河、新、守、を、恭、ひ、夜、通、し、又、延、付、唯、今、系、上、は、り、と、言、ふ、小、ぞ、世、に、延、く、是、を、と、え、ぎ、し、具、置、し、これ、を、廉、と、要、心、の、め、り、て、草、鞋、二、足、づ、を、カ、サ、掛、ら、れ、る、を、一、足、解、く、場、で、か、る、を、候、立、て、押、頂、き、於、一、寸、り、河、馬、と、並、で、延、付、は、突、き、勇、く、走、り、法、之、路、と、標、より、い、て、十、八、日、於、里、の、城、に、馳、着、り、池、田、信、輝、城、中、へ、突、向、ひ、秋、と、名、附、日、に、延、し、中、に、し、れ、其、中、に、ま、き、押、し、て、突、き、お、の、城、は、又、川、原、に、對、面、に、合、戦、の、次、身、を、尋、ら、り、又、城、中、必、死、の、難、を、い、迫、り、不、能、日、曉、天、又、師、と、辨、れ、秋、山、佑、耆、守、と、岩、村、の、城、に、隣、勝、頼、自、國、引、入、り、と、重、遠、の、言、信、輝、は、同、に、叔、父、軍、中、に、又、變、を、ぞ、退、き、と、い、え、へ、う、岩、村、の、城、要、害、せ、る、間、に、秀、系、爲、せ、し、十、七、日、か、於、里、を、控、の、將、と、合

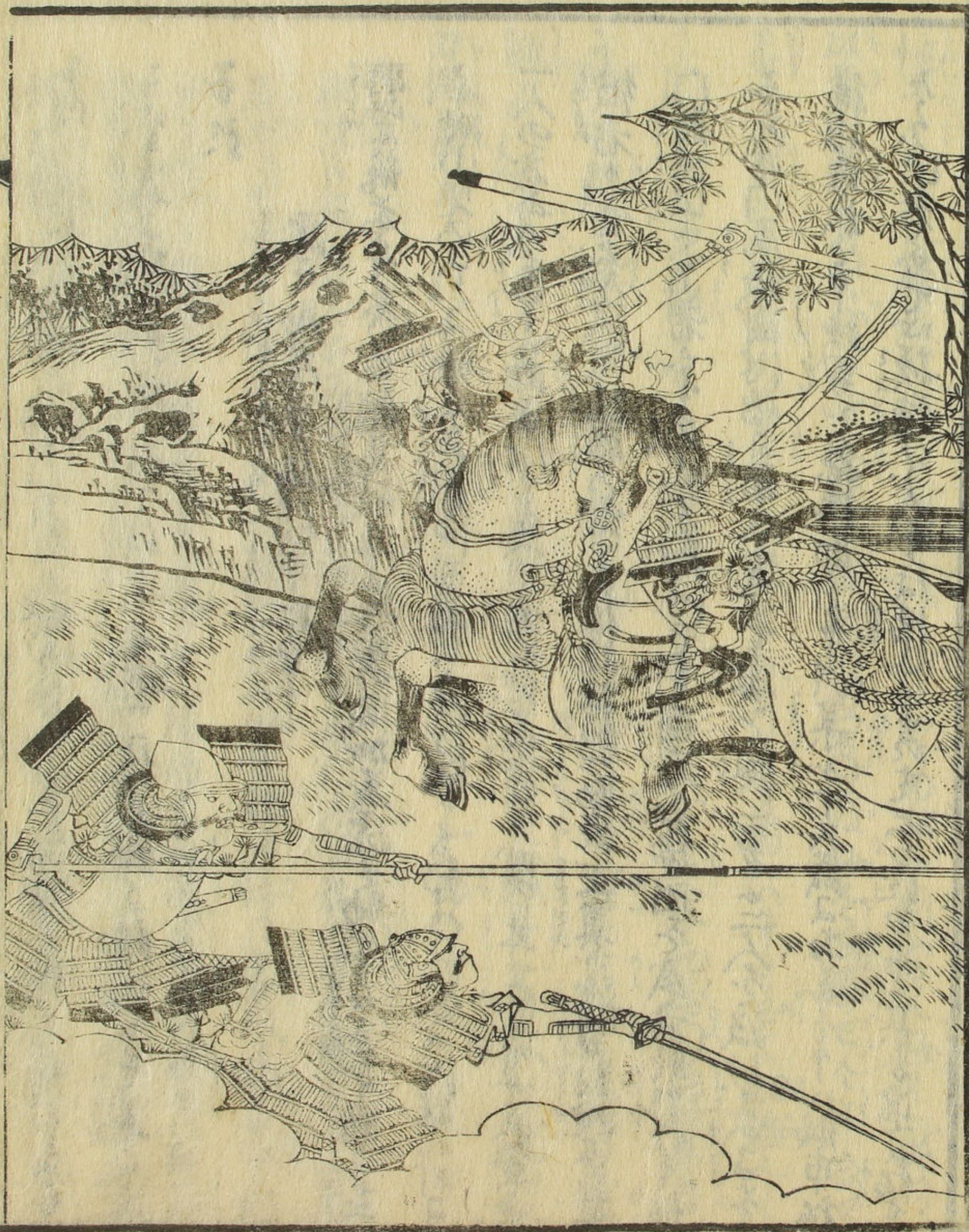
せ三日が間息をとり継ぎて来らる。秋山伯耆守の武田の一族武田源
 國之助と云たる勇士大將夜先守た又撫ひを無多り敵地は強て城と致
 かの剛迫るれば此も候く色々術を施して防戦せり。秀吉もさく
 然る國石谷の地を石工多し入用ののみ多く抱へ置る元来然る石
 山多く胆立石を切て地固し此者石工多しと云彼等が地を堀り穿山の
 狭又山と階らの妙あり。彼軍を引て来よ来り。是夜諸軍勢は燃
 させ石工は其間と陣中へ竊ま去中又堀りせ。城中三の丸の地は條
 一條の地を穿穿し。城中城外須臾も渡りなく。是夜合戦の甚きは終
 と秀吉の御旗の御書も柳も火と燃兵曾て知らば思ひはれ候
 地を成ぞ有る。斯て廿一日は候と攻方は陣を見せて押せと。燃兵
 等も大に歎びけ候。此の疲困と激し。された不意に秀吉も計
 難しと燃兵。虎はは張書を居擧ぐる。遠見を並無むに焼別

最厳重に有りたり。此の夜は宵の程より大雪。小雪もよく雪
 て雨も降り入り雪霽小降りや。ゆりくる雪。山路の青空も白く
 風の祝部の儀らり。隙の隙山風。番兵の陣より脚凍はれ
 白いく構ふる隙。こころ帷幕をたれ。数日防戦も勞もさる人
 こころ風ふる中より。稍く眠り着か。城中闇ふとの寂し。鼻
 雷の響き考へたり。此時秀吉は縁に風雪の起るきを考へ。この備
 うに時地道を衝て城と屠り。一戦に功と遂んと。宵より物の具一揃
 一。屈竟の伏兵五六人を城らく也。敵の動静を伺せ。向進りと
 待り。夜半の鐘声。こころに宵へ細間もく。立帰る。秀吉も
 の風雪より。燒棄たる無火志ちやうに急り荒して備へたり。秀吉
 敵を斜る。謀計思にあれ。石工諸軍に攻具を取せ。地
 道を潜りて押せ。隊兵こころに報る。真先に進る石工も谷城を

つけぬ胆を揺（地道を活と突やぐり。空地に膽んで散き出令敷一齊
 に打とて。練波を明と作ら。る陳に火をかけた。城を以のふに根
 根、このころの鬼神の力をとり。秋山伯耆守。大島左之助。物の具
 着ふ。このころ。このよも。得を過出まで。諸軍い。このころ。せん
 直に順きと。本て傾き。立城を。走。見。かりけ。有。形
 かり。秀吉の下知。あ。勝。頼。質。福田。河。口。た。才。ハ。中。乃。猛
 火と打消し。才と敗。て。逐。く。ひ。か。捕。る。名。を。ぐ。か。信。さ
 よも加藤虎之助。精。公。日。ご。ろ。に。信。し。天。晴。初。陣。の。功。名。に。能。首
 と。ひ。く。奉。ら。ん。と。美。先。ふ。と。首。以。獲。と。七。級。を。以。も。さ。ん。だ
 戦ふ。下。は。座。光。寺。与。市。に。出。合。り。虎。之。助。大。い。よう。こ。び。こ。さ。る。人。を
 著。い。の。座。光。寺。こ。ろ。ん。つ。ま。け。の。を。う。ち。こ。ろ。百。二。百。の。首。級。を。切
 こ。ろ。よ。起。を。う。べ。と。南。山。を。も。押。倒。と。な。き。勇。は。ぬ。こ。ろ。あ

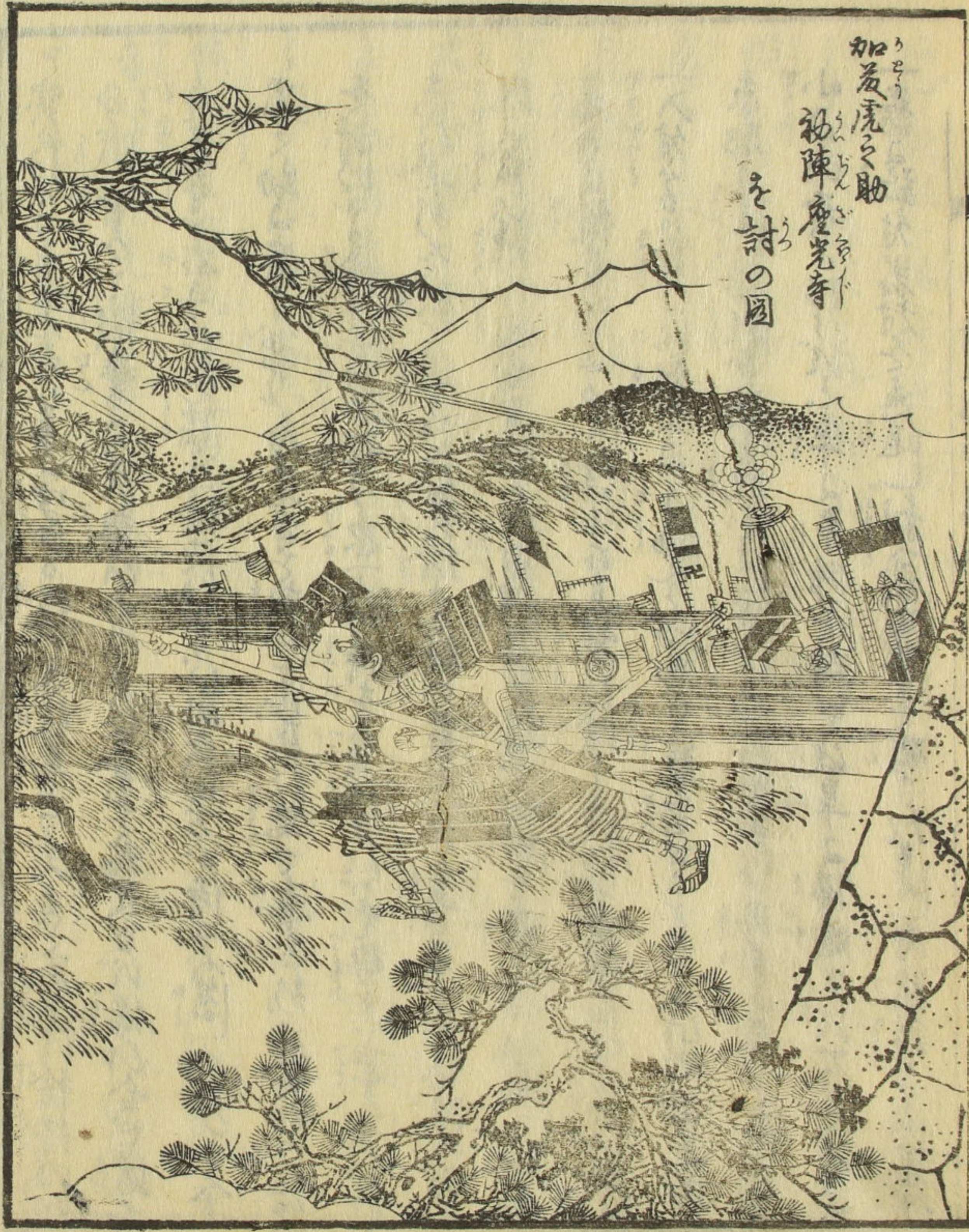
突りけり。座光寺い。さ。は。中。の。後。の。は。練。馬。と。よ。ろ。く。実。中。の。後。鋒。の。利
 の。鐵。槍。を。も。徹。棄。ら。れ。勢。い。あり。され。た。是。と。物。及。せ。ば。後。比。合。せ。還。て
 座光寺が。右。手。の。二。の。腕。は。後。に。け。り。け。附。武。田。方。が。侍。二。人。逃。く。死。て。う。り
 虎。之。助。又。密。々。然。り。座光寺を。救。ひ。ら。な。る。後。で。適。に。外。虎。之。助。に。後。款
 を。討。ひ。さ。し。傍。ら。を。取。り。起。り。忽。一。人。の。侍。を。実。伏。せ。し。む。を。勢。ま。や。衆。と。ま。ん。ぎ。し
 裏。に。逃。れ。を。取。て。追。う。け。後。実。伏。さ。る。款。の。首。を。え。て。退。き。さ。る。是。殺。陣。の。働。き
 膝。ひ。後。に。後。城。中。に。火。を。打。消。秀。吉。諸。人。の。功。を。賞。し。給。ひ。虎。之。助。座
 光。寺。に。後。を。治。す。る。は。は。は。は。は。は。是。練。馬。清。り。は。地。に。武。田。家。の。右。兵。と。よ
 一。入。付。る。り。真。の。比。敷。の。き。を。撫。と。い。よ。く。籠。籠。せ。ら。と。さ。る。け。附。信。長。郷。の
 系。都。は。は。勝。戦。本。團。を。犯。と。よ。は。は。は。は。武。田。家。に。い。英。勇。の。武。士。多。く。是
 小。の。義。又。何。は。は。と。率。て。系。隊。を。辭。て。後。早。に。帰。隊。を。以。不。幸。な。る。を
 一。番。に。近。付。岩。村。を。返。還。し。刺。武。田。勢。を。破。り。た。る。は。御。感。録。に。は。岩。村

清王記 力 諸將 五下



五下

加茂虎之助
秘陣屋光寺
を討の圖



ひしき

をば川尻とを衛尉に於けり又さき高松下と今とて羽柴統元等とをい
ら重遠と城を引渡して彼早退と信長卿と拜指を遂らし
あは

虎之助厚奉福壽市松事

羽柴統元等秀吉朝臣は早遠留の間加茂虎之助を召す平國と在
し時小畑の中ははと力量倍しき者なりしや 爲の爲に福壽の町に
一人の友ありき其の御用にも至る者地某より一町の年長をそとふ歳也
彼者か又いそ後國福壽の城に後勝掃部助源正真が次男日野と某
門尉正正と中者そを兄と不和にて平國を出諸國を武者候外はを後
と左衛門尾張國信濃に當り安を妻と與し男二人を後け長子を
後勝市松と中次男と孫治郎と中其が十五歳とおんる中後勝市松
たりし者きて心換極く人をば活くる貴たなりは力量某の遠く

他平生のいれ能君は仕方は末代は幼少の功を殿いんは世に就う
以希に君を以れ我と吹奉せよ我希に仕方ははははを吹奉せんと命せ
果たりし者きは歎んで来上仕人しそ弟と中者いんもにて幼雅と
しははもさらば微くせよと信濃人を遣はし給ふを又与左衛門出時福後
又師して死め給ひはを叔市松を連れて彼早退と中者にて出出見たりと
眼大はしてきまきり當年十五歳といふた幸齡廿歳斗と力とて中者
刀獵番と下らんを母は福壽の場うは勝つをゆりたる

或は又孫治郎の名を左衛門の欄を新左衛門とす若の男二歳むりの時
這出うて又母に懐ひたるわふ大なる石向を腰に結りあはの石向に
どうりながら這出りしなるとる信が「福壽家而源氏之或曰孫西八郎
朝の男海の冠者の末系なりとする。為朝臣皇國大將にて後切らる所
あり。備男は冠者を與し九州よりその子孫孫國と渡り彼國中府

とらふるにありて王とありて後醍醐王を即る朝の違背なり。後醍醐王は元寇のとき、
あつたを志願す。其のとき、
一家の契、未だ一家の後、
十八代の孫をうとつる。市松の後、
秀吉朝臣、
正則は若らぬ、

斯て秀吉朝臣長、
一奇男たるは、
廿歳なり、
岐の若孫、

為基十三代、
濱舟右衛門、
若は、
松とあり、
又孫右衛門、
有之、
門の春、
とと、
孝、
の酒、
の、
城、

清云記ハ画工玉山子ノ遺圖也。圖既ニ成テ文章イニタ成ナルニ
 病ニ罹リテ死セリ。今回其古圖ヲ考ルニ是ガル所有ソノ高弟
 玉峰足ガルヲ補ヒ清書シ。文稿ハ天山老々ヲ以草セシム。老々
 其初ハ雲州ノ産姓ハ若林字ハ葛滿ト云野史ヲ京都浪花
 間ニ講シ其名最能人所知ナリ。今此書全部三十卷トシ五卷
 ヲ以一帙トス。其傳ハナク多端也。ト雖諸記ニ出タル所ハ洩シ
 テ記サス。今初篇一帙五卷。已ニ成首卷ニハ妙見宮靈驗ノ
 趣ヲ記シ。次ニ本傳也。最初ニハ加藤家ノ来由ヨリ。清正朝臣
 出生孩子タルトキヨリノ行状及ヒ豊臣家ニ仕ヘ總角ヲ結
 ヒ。初陳ノ戦功ニ至ニテ是ヲ記ス。ニ編モ続ヒテ近刺スベシ

文化九年壬申冬十月書林英榮堂主人識

皇漢洋今古書類自家積年發兌セル者ト其集
 藏畜ニ充棟載車ノ夥キノミナラズ品位精工價
 程清廉以テ四方君子ノ愛顧ヲ待ツ

文榮堂藏版

東區南久寶寺町四丁目 八番地

阪府書林

前川善兵衛

